

エネルギー・環境の選択肢に関する意見聴取会

広島市会場

■日時

平成24年7月29日(日)13:00～15:00

■場所

広島YMCA国際文化センター2号館大会議室(4F)

■参加者数

計79名

■当日の様相

※一般参加者のお名前については、英文字に置き換えさせていただきました。

<開会>

◎女性

皆さま、お待たせいたしました、大変申し訳ございませんでした。

これからの進行は、下村審議官にお願いします。ではお願い申し上げます。

◎司会者

大変ながらくお待たせをいたしました。それでは、ただ今から「エネルギー・環境の選択肢に関する意見聴取会」を始めさせていただきます。本当にお忙しい中、そしてとっても暑い中、お集まりいただきましてありがとうございます。

先週の第4回大阪会場から司会に加わりました、私内閣広報室の下村健一と申します。よろしく願いいたします。

本日は265人の方から、参加お申し込みをいただきました。そこから無作為抽選で当選された方が127名、実際今ご来場いただいている方は、13時ちょうど現在で76人の方です。報道関係の方は、事前登録で25社、53名の方となっております。

意見表明希望の方につきまして、内訳をまず申し上げます。ゼロシナリオを表明したいという方が73名、15シナリオを表明したいという方が12名、20～25シナリオを表明したいという方が17名、そしてこの3つのいずれにも入らないけれども意見を表明したいという方が15名、そして意見表明は特にしないけれども、この会には参加したいという方が148名いらっしゃいました。

この中から無作為抽選で選ばせていただきました。きょう実際にこちらにお並びのご意見を表明したいとの方々、内訳はゼロシナリオに対する意見表明の方が6名、15シナリオが2名、20～25シナリオが2名、そしてこの3つのシナリオ以外について意見を表明したいという方2名、以上12名の方をお願いをしております。

ただ今、実はお待ちいただいた理由がこれなんですけれども、うちお二人の方が直前までご出席がご確認できませんでしたので、直前5分だけお待ちしましたが、2名の方にあらかじめこうした場合に備えてお願いするかもしれませんということでお願いをしておりました、いわば補欠繰り上げの方お二人に、急遽お入りいただきました。ただ入れ替えの部分で、シナリオの内訳は変わっておりません。当初の方が予定されていたシナリオと同意見の方から2名の方に、急遽お入りいただきました。

このように、きのうの会から、3つのシナリオ以外についての意見表明もお願いするということになっております。第1回から始まって、その都度ご来場の皆さんからいただくアンケートのご意見を踏まえながら、運営の改善を続けております。きょうもまた、アンケートをこの後お書きいただいたものをまた反映して、来週はさらに改善する点があれば改善したいと思っております。

これから、そして今までの大きな流れをまず申し上げますが、今政府は「エネルギー・環境会議」、ここにおいて、あの震災と福島第一原発事故を踏まえて、エネルギー・環境戦略の見直しを行っております。ちょうどきょうから1カ月前になりますが、先月6月29日、この会議で2030年のエネルギー・環境に関する3つの選択肢、これを取りまとめました。この後ご説明いたしますけれども、それを受けて、この意見聴取会というものが今行われているわけです。

きょうはまず初めに、古川国家戦略担当大臣の挨拶の後、政府担当者から、この3つの選択肢、シナリオについて、ご紹介させていただきます。

その後、こちらにお並びの12名の皆さんから、およそお一人さま7分以内をめどに、ご意見を発表していただきます。

その後、第2ラウンドとして、それぞれお聞きになった他の方のご意見を踏まえて、またここでキャッチボールのようにして、この点はどうなんだと、意見の交換をしていただくというかたちを取らせていただきます。この第2ラウンドは、多くのやり取りをさせていただきたいので、あまりお一人の方が長く話されるというかたちにはならないように、大体1回のご表明2分ぐらいでお願いできればと思っております。よろしくお願いいたします。

ということで、こうした進行を行いまして、他の会場でも行い、後ほど詳しく申し上げますが、さらにこの後いろいろなご意見の集約を行いまして、政府としてエネルギー・環境の大きな方向を定める革新的エネルギー・環境戦略を決定すると、このような流れでこれから進めてまいります。

エネルギーをどうやって丁寧に使っていこうかという議論の場ですので、きょうも冷房は控えめにさせていただいております。少々暑くなっておりますが、もしあまり暑すぎて議

論に集中できないよということがございましたら、ちょっとサインを送っていただければ、こちらで調整いたしますけれども、できればこの控えめな冷房で、お暑い場合、上着を脱いでいただいで進められればと思っております。

皆さまの前で失礼だと思って、今古川大臣、上着を着用しておりますが、大臣ももしお許しいただけるならば、この後上着なしでご挨拶からお願いしたいんですけども。大臣は着てろということでしたら着てますが、よろしいですか。じゃあ、すみません、ありがとうございます。

<大臣による冒頭の挨拶>

◎司会者

それではさっそく、まずは古川国家戦略担当大臣からご挨拶を申し上げます。よろしくお祈いします。

◎古川大臣

上着を脱いだままで失礼いたします。国家戦略担当大臣をつとめております古川元久でございます。本日は大変お暑い中ですね、また、さまざまご予定もあったのではないかと思います。そういう中ですね、この意見聴取会にお集まりいただきましたことを、まずもって心より感謝を申し上げます。

昨年の福島原発事故を踏まえて、多くの国民の皆さん方が原発に依存しない社会を作りたい、そうした思いを持っておられます。こうした思いをしっかりと私どもとして理解をした上で原発への依存度をできる限り減らしていく。そしてその上で新しいエネルギー構造を作っていくこと、これが私たちの政府としての基本的な態度であります。原発への依存度を下げていく、その代替手段として原子力の代わりにどういうエネルギー源を代替していくのか。この点が大きな論点の一つでありますけれども、私どもは「原発からグリーンへ」と、原発に代わる代替エネルギーとしては太陽光や風力、あるいは地熱、こういった再生可能エネルギーや、また省エネルギー、あるいは蓄電池などですね、蓄電をする、そうしたさまざまな取り組みによってですね、新しいエネルギー構造を作っていきたいと思っております。

この私たちが目指す「原発からグリーンへ」。新しいエネルギー構造は従来の一部の電力会社が大きな発電所を作って、そして皆さんに電気を供給していくという、そういう供給者とそして需要家の側が明確に分かれていた。そうした構造とは根本的に異なっております。今日ここにいらっしゃる皆さま方も含めて、私たち国民一人ひとりが自分たちでエネルギーを作ったり、また貯めたり、また節約したり。そうした私たち国民一人ひとりの参加の中で新しいエネルギー構造を作っていくことが必要となっております。こうした新しいエネルギー構造におきましては、エネルギーの選択はまさに私たち一人ひとりの選択でもありますし、そしてその責任というものも私たち一人ひとりがまた負っていかなければ

いけない、そういう新しい構造であります。

その意味で、これまでエネルギーの問題につきましては政府の中で専門家の方々だけで議論をして、それを踏まえてこれまでもエネルギー基本計画などを作っていました。しかし今回こうした大きな方向転換をする中で、ぜひこれからはエネルギー選択の主体にもなっていただく国民の皆さま方にもこの議論にも参加をしていただき、そして国民の皆さま方の意見も踏まえた上で国としてのエネルギー政策を決めていきたい。そうした思いでこうして皆さま方にご意見を伺う、そして皆さま方同士でご議論していただく、そういう場を作らせていただいているわけでございます。

そういった意味では今回のこうした取り組みはこれまでの政府にはなかったはじめての取り組みであります。そういった意味で、皆さま方からさまざまなご意見をいただき、随時改善をはかりながらこれまでも取り組んでまいりました。意見聴取会、これまで6回開催をさせていただきました。その場で出た意見や、あるいはその場で書いていただいた皆さま方のアンケート、ご意見、私すべて読ませていただきました。こうした意見を踏まえまして、例えば3つシナリオをお示しをさせていただきますけれども、どのシナリオも選べない、私はほかの意見があると、そういうお話もございました。そうしたことも踏まえましてですね、今回はこの3つのシナリオでの意見表明以外に、その他の考え方を意見表明いただく。こうしたことを希望される方にも意見表明をいただく、そうした形に改善をさせていただきました。

そうした意味で、今回のこの意見聴取会は昨年から今年にかけて、政府の中で専門家の皆さん方に集まっていたいて総合エネルギー調査会やあるいは中央環境審議会、こうしたところでさまざまご議論いただいた、そのことをベースにして「エネルギー・環境会議」で3つのシナリオという形にまとめて、そして国民の皆さま方に、新しいエネルギー構造を作っていくためには、皆さまのご参加も必要不可欠でありますので、こうした形で皆さまにもご意見も伺っている。そうした形を取らせていただいています。

この意見聴取会は、ここにいらっしゃる方々もそれぞれさまざまなご意見があると思います。ぜひ自分と違うご意見の方の意見も率直に聞いていただきたいと思います。さまざまな意見を同時に聞いていただく中で、それぞれ皆さん一人ひとりの考え方、そうしたものも深めていただければと。そういう中で皆さま方のご自分の考え方というのも作っていただければと。そうした思いから今回こうした形で意見表明を希望される方、その方に事前に手を挙げていただいてその中から抽選で選ばせていただいて代表してご議論いただくということになっております。

残念ながら意見表明を希望されながら今回意見表明をしていただけない方につきましては大変申し訳なく思いますけれども、皆さまからこのアンケートで書いていただくものについては私すべて責任を持ってしっかり読ませていただいて、それも皆さま方の声として受け止めさせていただきますので、どうかご理解を賜りたいというふうに思っております。

今回のこのエネルギーに関する議論は、私たちの世代だけでなく、次の世代にも、そしてまた国際社会にも大きな影響や関心がある、そうした議論であります。どうかこの場を通じまして建設的なそして実のある議論がなされますことを、そうした議論を踏まえまして私ども政府として、これからのエネルギーの在り方について、皆さんの意見をしっかりと踏まえて上での政府としての責任ある判断をしてまいりたいと思いますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

◎司会者

古川大臣でした。

<「エネルギー・環境の選択肢」の3つのシナリオ説明>

◎司会者

それでは、「エネルギー・環境の選択肢」3つのシナリオについて、日下部内閣審議官より、ご紹介申し上げます。お手元の封筒の中にございます資料をご用意ください。同じものが、こちらのスクリーンにも登場いたします。

では、よろしくお願いします。

◎日下部審議官

ただ今ご紹介にあずかりました、国家戦略室の日下部と申します。お手元の横長の資料がございます。これに基づいて、今回の政府が提案をしている3つの選択肢、ご説明させていただきます。

1ページ、めくっていただきたいと思います。

今回のエネルギー選択の意味ということで、ボックスがございます。一番左側を見ていただきたいと思います。

ちょうど約2年前、約2年前です、2010年の6月、日本は大きなエネルギーの選択を行いました。その中身は温暖化問題の解決、それから純国産電源、こうした意味合いで、実は原子力を基幹電源とするエネルギー選択をしたということでございます。2010年の原発の電源に占める割合26%です。それを2030年までに45%に上げる、この決定をしたのが約2年前でした。

下側に吹き出しがございます。1年前の3月11日、東日本大震災、福島原発事故が起きました。今なお多くの福島県民の方々、風評被害で苦しむの方々、おられます。そうした中で、右上を見ていただきます。ちょうど1年前、エネルギー・環境会議は、原発依存度を可能な限り減らす、こうした大きな理念を打ち立てて、国民的な議論を開始した経緯がございます。現在この方向性、大きなかたちでは共有されているかと思いますが、右下を見ていただきますとわかりますように、ではどの程度の時間をかけて、どこまで減らしていくのか、それをどういうかたちで、どの電源で補うのか、あるいはどの程度生活

の仕組み、社会の仕組み、産業の仕組みを変えていくのか、ここについては大きく議論が分かれてございます。

次のページを開けていただきます。

先ほど大臣から紹介がありましたように、政府の提案の基本的な方向は「原発からグリーンへ」であります。

次のページ。

左側のボックスを見ていただきますと、原発依存度を下げていく、これは基本的な方向です。それから左下にありますように、輸入に頼る化石燃料、この依存度も避けたい、これも基本的な方向であります。そうしますと、これからのエネルギーの主軸は再生可能エネルギー、それから省エネというかたちになります。

こうした原発からグリーンへという大きな方向性を実現するために、右上にありますように三つの改革、すなわちこうしたエネルギーの転換で成長を加速する、それから大臣から話がありましたように需要家の一人一人がエネルギーを選べる仕組みをつくる、これが電力システム改革です。再生可能エネルギーを選びたいという消費者の方が、電力会社からそれを買える仕組みに変えていく、こうしたことでございます。それから右下にありますように、こうした原発からグリーンへという大きな方向性を、新しい国際貢献につなげる。こうしたことは、どのシナリオを選んでも政府が実行する改革としてご提案をさせていただいております。

その上で、次のページなのですが、今申し上げましたように、左上にありますように、「原発からグリーンへ」という大きな方向性を共有した上で、では視点の位置で、原発の安全確保、将来リスクの低減をどうするのか、こうした視点が非常に重要であります。一方で、エネルギー安全保障を高めたい、それから視点の3でありますように、温暖化にも貢献をしたい、一方でコストはなるべく抑制をしたい、こうしたいわば、どちらかという相矛盾するいろんな要請を踏まえながら、真ん中のボックスにありますように、原発低減の度合い、再生可能エネルギーの度合い、エネルギー転換のスピード、これをこれから皆さんと共に考えていく、これが今回の政府の提案でございます。

このために3つのシナリオ、スピード感の違うシナリオということで、ゼロ、15、20～25の3つのシナリオを用意させていただいたということでございます。

次のページを見ていただきます。

3つのシナリオの大きな概括的な表が、これでございます。一番左側、2010年現在、震災前に行ったエネルギー選択は、火力が主体、赤が主体のエネルギー選択でした。一番右側を見ていただきますと、現在のエネルギー基本計画、2030年、紫の原子力を主体とするエネルギー選択を行っております。今回、政府が提案をした3つのシナリオ、これいずれも見ていただきますと、緑のグリーンが大きく増え、紫の原子力を減らしていく、こうした方向性は同じですけども、その度合いがそれぞれ異なっているということが見て取れるかと思えます。

次のページを開けていただきます。

基本となる原発依存度低減の考え方を整理いたしました。一番上のラインで、共通事項と書いてございます。原発の事故の再発を防ぐ、使用済み核燃料の問題を解決をしていく、それからこれから原子炉の廃炉をさせる人材の確保も非常に重要になります。そうした人材や技術を確保していきたい、これは共通事項として講じながら、例えばゼロシナリオを見ていただきますと、原発低減の度合いはマイナス 26%と大きくなります。原発低減の考え方はなるべく早期に、2030 年前までにゼロにするということでございますし、核燃料サイクル、これにつきましては、いわゆる使用済みのウランを再利用するのではなくて、直接処分の方針に転換をするという考え方でございます。

一方で 15 シナリオ。真ん中の数字を見ていただきますと、現状の 26 だったものを 15 まで下げていく。それは原発依存度を着実に下げるという考え方であり、今ある全ての原発に対して、40 年運転制限を政府は提案しております。それを自然体で運用した場合の数字にほぼ相当しておりますし、原発の新增設、これは極めて難しいという状況に合致した数字ということでございます。核燃料サイクルについては、再処理も直接処分もあり得ると整理をいたしました。

さらに 20～25 のシナリオ、これを見ていただきますと、原発低減の度合いは一番小さくなります。緩やかに依存度を低減しながら、一定程度維持したいというシナリオです。この場合は、原発の新設、更新が必要となります。したがって原子力に対する、あるいは原子力行政に対する国民の強固な信認が前提となると整理をさせていただきました。核燃料サイクル、再処理も直接処分も、両方の道があり得るということでございます。

一方でこの議論をしますと、一番下にありますけども 2030 年以降の姿、これをどうするのだという点について、ご関心が高いと思います。政府の考え方は、ここに書かれましたように国際的な価格の動向、あるいは温暖化をめぐる状況、再エネの技術革新、こうしたところを見極めながら、2030 以降の姿について検証をしていくというご提案をさせていただきます。

次のページを開けていただきます。以降はそれぞれのシナリオの解説なんです。

「ゼロシナリオ」。数字を見ていただきますと、大きく原子力の比率を下げます。したがって再生可能エネルギーの比率は、現在 10%程度しかございませんけれども、35%程度まで 2030 年までに引き上げていきます。省エネルギーも、他のシナリオに比べて相当程度大きなレベルの省エネルギーを実現していきます。このためには、左側のボックスにちょっと解説を書かせていただきましたが、これからは電力を選ぶ時代になります。消費者の方々の選択しだいでありまして、その選択を後押しするために規制を強化したり、あるいは若干の経済的なコストについて甘受していただくということが必要かというかたちで整理をさせていただきました。左下にありますように、こうした再エネ、省エネを少々の努力を加速的にやることによって初めて、温暖化のレベル、あるいはエネルギー安全保障で問題になる化石燃料の輸入額、これは他のシナリオとほぼ同額になっ

できます。一方で、こうした努力をする結果として、右下にありますように、経済への影響は他のシナリオよりも大きくなる傾向になってくるということでございます。

次のページを開けていただきます。

「15 シナリオ」。ゼロシナリオに比べると、原発依存度の低減の度合いは少し小さくなります。しかし再生可能エネルギーの比率は、現状の 10%から 30%まで引き上げていきます。省エネも相当程度頑張っていたとすることを前提にしております。左下にありますように、こうしたことによって温暖化のレベル、エネルギー安全保障の問題になる化石燃料の輸入額、これをゼロシナリオと同程度に抑えていきますが、経済的な負担につきましては、ゼロシナリオに比べると小さい傾向、後で紹介する 20～25 シナリオに比べると大きい傾向というかたちになります。このシナリオの場合には 2030 年までの間、化石と、原子力と、再エネを組み合わせるというかたちのシナリオになっているということでございます。

次のページを開けていただきます。

「20～25 シナリオ」。原発依存度の比率、これは他のシナリオに比べて緩やかに低減するかたちになってございます。したがって、再生可能エネルギーの比率も 25%から 30%まで引き上げればよいというシナリオとなっております。左下にありますように、温暖化の対策のレベル、あるいは化石燃料の輸入額、他のシナリオとほぼ同程度ですけれども、このシナリオの場合には経済的な影響は他のシナリオよりも小さくなるというかたちになってございます。これが 20～25 シナリオでございます。

次のページ、開けていただきます。

今申し上げた話を、原発依存度と対になっているグリーンシフトの姿ということで比較を試みたのをご紹介したいと思います。

次のページを開けていただきますと、このグラフは一番左側が 2010 年です。真ん中が 15 シナリオあるいは 20～25 シナリオを選んだ場合の姿です。すなわち再生可能エネルギーの比率を約 3 割までもつていこうというときの姿です。一番右側はゼロシナリオを選んだ場合の姿でありまして、再生可能エネルギーは 30 ではなくて、35 まで拡大するという姿でございます。一番上が、太陽光でございます。太陽光発電、現在日本には原発 0.5 基分に相当する 38 億キロワットアワーしかございません。戸数で言うと 90 万戸です。15 シナリオあるいは 20～25 を選んだ場合には、この戸数を 1000 万戸まで拡大をする。すなわち太陽光パネルを設置できる全ての家庭に付けていただくこととなります。これによりまして、原発 9 基分に相当する太陽光パネルを開発するということです。ゼロシナリオになりますと、さらに 200 万戸追加をしていきます。この場合には、現状では太陽光パネルが載せられない住宅について、耐震補強をしていただいて、さらに増やしていただくという努力が必要になります。この努力について、投資とみるのか、負担とみるのか、いろんなご議論がありますが、やはりここまで太陽光パネルを載せて、再生可能エネルギーは 35%までいくというご説明でございます。

下が風力です。風力も、現在日本には原発 0.5 基分しかございません。これを 15 シナリオあるいは 20～25 シナリオまで行こうと思えば、原発 9 基分に相当する風力発電を建てなきゃいけません。風力の場合、面積を取ります。東京都の面積の約 1.6 倍に該当する土地を取得して、そこで風車を建てていくと、こういう議論になります。さらにゼロシナリオの場合には、原発 12 基分に相当する風力を開発するために、東京都の面積の 2.2 倍まで、その開発面積を拡大をしていきます。当然のことながら、風の向きがなかなかうまくいかない地域にも、風車を建てていくということになります。若干の経済コストの増大ということがあるかもしれませんが、ゼロシナリオの場合には、そういう努力をして風力の開発に努めるというご提案になってございます。

次のページ、開けていただきます。

省エネでございますが、省エネにつきましては 15 シナリオ、20～25 シナリオにつきましても、皆さんが使っているエネルギー、今よりも約 19% 下げてくださいという提案です。経済はこの間成長しますけども、エネルギーの消費は抑えていただく、そのための方策なんです。左上にボックスがありますけども、皆さんがエアコンを買い替えるとき、あるいは産業機械を買い替えるとき、そのときに最新鋭の設備に替えていただく、こうした努力を積み重ねて実現できる省エネのレベルです。一方でゼロシナリオ、この場合にはさらに 22% の省エネというご提案になりますが、この場合には買い替えの時期が来ていないエアコンあるいは冷蔵庫、産業機械、そうした物を前倒しで買い替えていただくという努力が必要になるということをご提案させていただきました。

こうしたかたちで、いわゆるグリーンへの努力につきましては、原発依存度の低減の度合いに応じて、それぞれ違ったレベルの努力が必要になる、そうしたことを国民の皆さまと共にご議論いただけるのかという議論を今回問いかけているということでございます。

次のページ、開けていただきます。

もう一度、先ほどのグラフです。このグラフを見ていただきますと、共通しているのはグリーンへの拡大の度合い、それから原発を下げていくという大きな方向性であります。原発を下げれば下げるほど、グリーンへの開発は必要になってきます。グリーンへの開発をしようと思えば、消費者一人一人の強い意志と、大きな努力と、それに対する政府の強い支援が必要になってきます。それをどのレベルでやっていくのかということ、これからは電気が選べる時代になりますので、先ほど大臣から紹介がありましたように、国民の皆さまとどのレベルまでやるべきなのかという議論と、どこまでやることができるのかと、この双方の観点からご議論を深めさせていただければというかたちで、今思っているところでございます。

次のページ、開けていただきます。

これからの進め方ですけども、現在国民的議論をいろんな場で行ってございます。それを踏まえながら、最終的に革新的なエネルギー戦略をつくっていくというのが、政府の現在の考え方でございます。ただこの革新的エネルギー戦略が終わった後も、一番

下に検証と書いてございます、エネルギーの問題については不断の検証、あるいは2030年目途で、もう一度国民の皆さまと大きな方向性で考え直していくと、こういうプロセスも提案させていただきました。こうしたかたちで国民的な議論は、大きな方針が決まる前も、決まった後も行っていくということについてご紹介をして、説明を終わらせていただきたいと思います。

なお、この資料の中で使った計算根拠等々については、国家戦略室のホームページ、「話そう“エネルギーと環境のみらい”」というホームページがございます。そちらのほうをご参照いただければ、参考になるデータをすべて公開しておりますので、ご参照いただければと思います。

以上で説明を終わらせていただきます。ありがとうございます。

<意見表明(一般参加者より)>

◎司会者

では続きまして、意見表明者の皆さまからご意見を頂きたいと思います。

先ほどもご説明いたしました、お二人の方の直前での入れ替えということがございましたけれども、ご表明いただくシナリオの内訳は変わってございません。ゼロシナリオの方が6名、15が2名、20～25が2名、そのいずれでもないというご意見の方2名と、合計12名の方に意見表明をお願いいたします。

そしてこの12名の方の順序ですが、お名前の五十音順、あいうえお順とさせていただきました。

お手元に意見概要一覧という資料がございます。この順序で進めてまいります、先ほど申しあげましたけれども、お二人の方、この紙で言いますと4番と11番の方が今繰り上げでこうした場合に備えてお願いしていた方に代わりましたので、4番と11番の部分は、ここに書かれている意見の内容とは違ったご意見の表明ということになります。ここに書かれているものは、本来ご出席予定だった方がこういう意見を言いたかったということでご参考にしていただければと思います。

五十音順についても、したがいまして4番と11番の方だけは入れ替わりがございます。それ以外は五十音順でお願いしております。

それでは皆さま、お一人さま7分をめどに意見表明をお願いいたします。一応参考として、係の者が残り時間の表示を随時させていただきますので、表明をお願いいたします。

それでは、さっそくまいりましょう。意見番号1番の方、お願いいたします。ゼロシナリオとお伺いしております。よろしく申し上げます。

◎意見表明者1

皆さん、こんにちは。東広島市のAと申します。立って話してくれということでしたので。

現在、広島大学で汚水処理の研究をしております。

私はゼロシナリオを選択しました。2030 年までのできるだけ早い時期に脱原発を実現するというので、その理由としては八つあります。

まず第 1 の理由ですけれども、原子力発電が極めてリスクの大きい発電技術であるということです。私たちは、昨年 3 月に原発事故の恐怖を実感いたしました。それから 1 年 4 カ月、これだけの時間がたった現在でも 16 万人もの人たちが避難生活を強いられ、多くの人々が放射能汚染におびえています。今まで住み慣れた町に、一生戻ることができない人もかなり多いと思います。このような過酷な事故というのは、原子力発電以外には考えられないんです。ですから、原発事故は二度と起こしてはいけませんし、そのためにはできるだけ原発を止め、廃炉にするということが必要だと思います。

2 番目の理由は、原発の安全性を担保することができないからです。私は原子力発電は三重、四重の安全対策が施されていて安全だと、二酸化炭素を放出せずに安い電気を供給できると説明をされて、それを信じてきました。しかし福島事故では、基本的な安全装置さえも起動せず、多量の放射性物質を放出する最悪の事態になってしまいました。福島原発事故を調査した国会の委員会は、原発事故は人災であったと結論いたしました。また政府の事故調査委員会は、国や東電の組織の危機対応能力の脆弱性が今回の過酷事故を招いたと、そういうふうに組織の構造的な欠陥を指摘しています。私も全く同感であります。人は誰でも過ちを犯します。そして組織というのは、一朝一夕にその風土、考え方を変えることが難しいです。こういうような状況下では、どのような安全技術を使っても、原発の安全性を担保することはできません。もし原発のリスクを払拭しようとするれば、脱原発以外にないと思います。

3 番目の理由は、原発による便益とリスクの不平等性を解消すべきであると考えからです。そもそも送電は大きなロスを伴いますから、電力を消費する場所で発電することが一番合理的です。しかし原発も放射性廃棄物の処理施設も、大消費地からは遠く離れた、そういう所に設置されています。原発の便益を受けることが一番少ない人たちが、一番大きなリスクを背負うということです。この便益とリスクの不平等性は、できるだけ早くに解消せねばいけません。もし大都会に住む人たちが、原発は安全で安価だから原発を存続すべきであると言われるなら、原発も廃棄物処理施設も都会の真ん中に設置すべきです。

4 番目は、原発を存続させる限り、そのリスクが年々増大してしまうということです。原発は絶えず高放射能、高温、高圧などの過酷な条件で使われていますので、使用期間が長くなれば装置が劣化します。廃棄物もたまっていきます。ですからゼロシナリオ以外のシナリオでは少なくとも今後 40 年以上が存続し、過酷事故や放射性廃棄物のリスクが増大します。このリスクをなくすためには、原発をできるだけ早くに廃止する以外に道はありません。

第 5 番目の理由は、日本には核兵器をつくる野心がないということの世界に行動で示

す良い機会です。原発で使う核燃料や廃棄物を加工すれば、核兵器ができます。日本は非核三原則を唱えています、日本がその気になればいつでも核兵器をつくれることは、外国の人たちは知っています。ですから日本は脱原発によって、日本が核兵器をつくる野心は持たないと、持っていないということを世界に広く身をもって示すべきだと思います。

第6番目の理由は、脱原発が再生可能エネルギーの普及を促進するからです。日本は世界に先駆けて、再生可能エネルギーの技術開発を行ってきました。ちょっと時間がなくなったので急ぎますが、しかしそれはやっぱり政府が原子力に軸足を置いたために、再生可能エネルギーの普及が遅れ、諸外国に遅れをとってきたということだと思います。できるだけ早くグリーン経済に移して、グリーン経済の発展を図るべきです。

そして7番目は、グリーン経済がエネルギーの安全保障を強化し、産業や雇用を守ると思います。現在日本のエネルギー自給率は4%ですが、これを格段に高めることができますし、産業の空洞化と雇用の維持も十分可能です。

そして最後の理由は、私たちは将来世代のつけ回しをもうやめるべきです。私たち、20世紀の後半を生きてきた人たちは、地球温暖化も原発事故も、あるいは年金も、全て将来世代につけを回すというやり方をしてきました。これからの世代が、どれだけのお金と時間をかけてこれを始末していくんでしょうか。私たちは責任をもって、このつけ回しをやめるべきだと思います。

日本社会は、ずるずると活力を失ってきているように見えます。その最大の理由は、私たちが目先の利益にとらわれ、日本の置かれている環境に適合した新しい社会を構築する努力を怠ってきたと思います。今回の大震災は大きな災害でしたが、もし私たちがこの災害をきっかけにして、より強固な活力に富む社会をつくることができれば、文字通り災いを福に変えることができます。今回のエネルギー源の選択は、エネルギー源の選択ですけれども、私自身はこれからの日本の社会、在るべき日本社会の選択だと思っています。正しい選択をしたいと思っています。以上です。

◎司会者

ありがとうございました。

続いて意見表明番号2番の方をお願いします。同じくゼロシナリオと伺っております。よろしくをお願いします。

◎意見表明者2

こんにちは。福山から参りましたBと申します。4月まで市議員をしておりました。今は専業主婦です。ゼロシナリオを意見表明させていただきます。

2011年3月11日の東日本大震災から、私たちは何を学ぶべきでしょうか。福島第一原子力発電所の事故により、故郷から避難を余儀なくされた人々、また不安を抱えな

がらも残り続けた人々、目には見えませんが人と人との信頼関係が断ち切れ、放射能汚染により食物の安全が問われ、母親たちは子どもたちの行く末を案じる不幸な事態を起こしました。もう忘れてしまったのでしょうか。まだこの不幸は続いているのです。

私たちは、大地、水、空気がなければ生きていけません。原子力のリスクは、事故が起こったとき予測不能、計測不能、収拾不能なリスクで、未来世代にも禍根を残します。一方ブラックアウトのリスクは、ピークシフト、ピークマネジメントの導入や節電、他エリアとの融通など、計算可能、規定可能です。

原子力という誰も責任が取れない、規定不可能なリスクを国家が引き受けるということは、倫理的に間違っています。このまま原子力を使い続ければ、使用済み核燃料は増え続け、核燃料サイクルの破綻、高レベル放射能廃棄物処理地の選定の困難性など、現実の障壁は高く、処分方法は未解決です。トイレのないマンションに例えられるように、そこに住み続けることはできません。技術では解決できないのです。これ以上、使用済み核燃料を増やさないと、そのためには原子力を即刻やめるべきです。エネルギー安全保障上、再生可能エネルギーは国産資源であり、ウエートをできるだけ早期に大きくすることが将来への投資にもなり、重要であります。

合理的に考えれば、電力価格の上昇が大きい選択においては、もっと省電力や自家発電とかコジェネの導入が進むはずで、そうすれば価格も抑えられるはずで、経済界からはエネルギーコストの上昇による経済への影響や、産業と雇用の空洞化が訴えられ、原発を推進する要望、意見が出ていると伺っております。日本は95年度から08年度にかけて、大企業、製造業の売上高が43兆円増えました。ところが原材料費が上がって、変動費が50兆円増え、固定費の人件費と利益を7兆円削らないといけなくなり、この時期、派遣社員や非正規労働者が急増し、格差が広がったと言われてます。景気拡大が実現しても、賃金水準は上がるどころか下落しました。14年間連続で自殺者が3万人を超える日本は、経済成長を優先して大切なものを失ったようです。これからは、少子化の時代です。当然エネルギー需要も、この見積りよりも下がっていくはずで、

私たちが今考えないといけないのは、GDPの成長ではなくて、幸福度の成長ではないでしょうか。私たちがGDPが増えたらいいと思っている、この常識に疑問を持つ人が増え続けているのではないのでしょうか。現在日本を含め世界中で、幸福度など経済成長以外のものを指標として求める動きが起こっています。

欧州では、固定価格買い取り制度によって飛躍的に自然エネルギーの導入が進んで、雇用創出効果も大きいと聞きます。再生可能エネルギーは地域に潤いをもたらします。今までは何でも中央から、エネルギーも大きなものでまとめられておりましたが、地域が主役の新しい時代を切り開く切り札が、再生可能エネルギーであります。さまざまな地域が潤うことによって、国の輝きやしなやかさが増すのではないのでしょうか。特に今まで原発立地地として原発のリスクに付き合わされてきた地域の方々に、原発の雇用に代

わる再生エネルギーの雇用など、新しい制度をつくっていただきたいと思います。

官邸前のデモは、普通の人の「このままでは駄目だ」「何か違う」という声です。環境倫理からも原発を即刻廃止し、省エネ、再エネを推進して行ってください。

また今後どの道を選択するにしても、国民に分かりやすく説明する責任が政府にあると思います。この説明責任がないから、国民は不審を抱き、そして政府に対して「ちゃんとしたことを教えてくれ！」と声を上げております。どうか国民に対して、説明責任をきっちり果たしていただきたいと思います。以上です。どうもありがとうございます。

◎司会者

ありがとうございました。

続きまして意見表明 3 番の方、お願いいたします。同じくゼロシナリオと伺っております。よろしく申し上げます。

◎意見表明者 3

広島市で歯科医師をしております C と申します。このたびは、このような機会を与えていただきまして、誠にありがとうございます。

ゼロシナリオということで。今回用意された 3 つのシナリオでは、今後のエネルギー方針の大前提として、原発依存度を低減するということがまず掲げられています。それに伴って、どのような影響が出るか、いろいろ検討して練られたのがこの 3 つのシナリオということですが、2030 年という年限を区切って原発依存度の目標をそれぞれ設定されていますが、結局将来的に原発をどうしたいのかということが一番の問題で、それをはっきりさせてもらいたいというのが、僕としては一番の希望です。

そこでまずこれら 3 つのシナリオを見た印象から、なぜゼロシナリオを選択するのかというところから入りたいんですが。

まず 2010 年の時点での原発依存度が 26%であるということで、これを踏まえて考えてみたときに、2030 年という 18 年後の原発依存度の目標値として、20~25 シナリオというのはあまりにも依存度低減への努力が足りないんじゃないかと感じざるを得ませんでした。また 15 シナリオというのは、一見バランスを取ろうとしているようにも感じられるんですが、2030 年の時点で 15%というのも、18 年という年月を考えたときに、やや高いんじゃないのかなという印象を持ちました。さらに 15%を達成したとして、その後も引き続き依存度を下げて 0%を目指しているのかどうか不明確で、今後の方針としては無責任な状態が生じやすいのかなと思います。こう考えると、やはり 2030 年の時点で依存度 0%を目指しましょうという明確な目標をまず決めるということは、重要なことなのかなと思います。

では、なぜ原発依存度ゼロを目指すのかということなんですが、2030 年という年限は別としても、原発依存度ゼロを目指すべき理由は多く存在しているように思われ、原発が

ら得られるメリットよりも、原発を利用することによるデメリットのほうが大きいと考えられません。

原発の問題点として、僕として最も難しいと感じるのが、高レベル放射性廃棄物の最終処分をはじめとした廃棄物処理の問題です。そもそも商業利用している技術なのに、そこから出る廃棄物の処分方法がただただ厳重に保管して半減期を待つのみという状態なのは、どうにも納得いきません。保管場所の問題もあれば、保管期間の長さから、その管理の問題もあり、確実に後世への課題として残ります。これはいくら原発が事故を起こさず安全であっても、廃棄物は出続けるわけであって、今回の福島事故より以前から気にはなっていたことではあったんですが、今回の事故を契機に改めて強く感じるようになりました。

CO2 の排出と放射性廃棄物の排出とでは、現在の科学技術的にどちらが手に負えないのでしょうか。どちらか先に問題を解決できたほうが、もしくはまったく別の技術の台頭がいずれか早く進歩したものが、今後のエネルギーの主役となることでしょう。放射線は遮蔽すれば避けられますが、放射性物質の持つ放射能をなくしてしまうような技術ができれば、もっと安心して放射性物質を利用することもできるようになるでしょう。これはまさに、人類文明もまだまだ進化の途中なのだなと感じざるを得ない事柄の一つのように思います。今後の原子力技術研究におかれては、放射性物質を完全に無害化処理し、安心して普通に埋め立て処分でもできるような技術の開発を目指していただければと思います。

18 年後の目標ということですが、18 年前から現在までの世の中のさまざまな変化を考えたときに、この年月というのは長いのか短いのか、どうなのかなというふうに思うんですが、インフラとしての電力が今後どう運営されるべきなのかなということともかかわってくるのかなとも思うんですが。電力エネルギー戦略というものが本当に重要で、確実に実行されないといけないというものであれば、もはや電力事業は民間企業のかかわるべきことではなくて、国や地方自治体が運営したらいいんじゃないかとも思います。

逆にこの 18 年間で大きく変化したものを考えると、やはり民間企業が積極的にかかわってビジネスとして魅力的だった分野が、良くも悪くも大きく変化しているような気がします。スピード感ある変化を期待するなら、電力エネルギー事業はもっと自由に多くの企業が参加できるような状況のほうがいいのかもしれないですね。

最後になりましたが、つくば万博のころ 21 世紀を夢見ていた、われわれ団塊ジュニア世代なんですが、実際 21 世紀になった今、働き盛りの世代として今後の日本の方向性をしっかりと考え、これから 21 世紀の社会をつくっていくといけないんだなということを、今回の聴取会に参加させていただくにあたり改めて実感いたしました。以上です。ありがとうございました。

◎司会者

ありがとうございました。

続きまして意見表明番号 4 番の方、先ほどからご紹介しておりますとおり、急遽お願いするかたちになりましたが、この概要一覧とは違ったかたちで、15 シナリオをご意見表明いただきます。お願いします。

◎意見表明者 4

すみません、事務局さん、パワーポイントと配布資料をお願いします。

◎司会者

インターネット中継のカメラさん、なるべくパワーポイントのほうを撮影をお願いします。

それでは今、パワーポイントをプリントアウトしたものですね、ご配布いただいております。会場のほうにはご配布をしております。全国でご覧の皆さまは、スクリーンのほうをご覧ください。

もし画面が出るのに時間がかかるようでしたら、5 番の方にお問い合わせでしょうか、先に。大丈夫ですか。それではお願いいたします。

◎意見表明者 4

昨日富山会場で意見を表明した、愛知県の小学校教員です。先ほど事務局から「あなたを選んだのはミスだからおりにように」という説得がありました。応じませんでした。できるだけ多くの方に意見を述べていただくために辞退すべきではないかとも考えましたが、どうしても国民の皆さんに考えていただかなければならないという思いから、このチャンスを逃すことはできませんでした。

配布した資料は、富山会場のものです。きのう私の主張は、大きな社会的混乱を避けながらグリーンエネルギーにシフトを図るためには、残念ながら最小限の原発は稼働を容認します。その代わり、40 年の設計寿命は守ってください。しかしながら 15%シナリオ、これシナリオをつくった人は当初、20～25 は捨てられるだろう、0%は厳しいことが書いてあるから選ばないのではないかと、結局 15%に落ち着くだろうと思ってつくったんだと思います。でも実際には、ここにありますように圧倒的に 0%を選ぶ方が多かったです。僕は 15%にしておきましたが。

この中で問題なのは、どちらもあり得るという表現で核燃料サイクルの継続、これを図っていることです。断固反対です。反対理由は、富山の資料をご覧ください。再処理、高速増殖炉はプルトニウムを得る手段であり、日本人のごく一部の人たちしか考えていませんが、核武装につながる道でもあるんです。さらに 6 月に成立した原子力規制委員会設置法の目的、修正協議という姑息な手段で、「我が国の安全保障に資する」という一文が加えられました。「我が国の安全保障に資する」という法律用語がどんな意味を持っているのか、原爆の惨禍を受けた広島の方なら理解しているでしょう。これはエネルギー

安全保障だと弁解がされましたが、法文にはエネルギー安全保障とは書かれていません。安全保障とは、法律用語で軍事利用をさします。日本人の大多数は原子力の規制強化を望み、福島のような事故が再び起きてほしくないと強く願っています。そのためにつくられた法律に、日本人の大多数が最も恐れる原子力の軍事利用を許す、そういう文言が入れられたのです。怒りを覚えます。日本は法治国家です。

次をお願いします。

日本は法治国家です。国民がどんなに望んでいても、法律にないことは国は動こうとしません。逆に法律になっていることは、国民がどんなに拒んでも、国は押し進めます。本来は法治国家の上に民主主義があるはずなのですが、残念ながら国民の意志を聞くのは、選挙のときしか聞いてくれません。原子力規制委員会の人事も、原子力推進派の人々で構成されようとしています。このままでは福島事故以前の状態に、なし崩しに戻るだけです。いや、戻るだけでなく、原子力の軍事利用という焼け太りを許すことになってしまいます。絶対に許されることはありません。

別の見方を提示します。福島事故が拡大した原因追及は、どこまでできたのでしょうか。先日の畑村報告では、原因は分からない、今後も調査が必要だ。しょうがないですね、入れないんだから。NHKは、SR弁、これが格納容器の圧力で働かなかった、だからベントしたくてもできなかつた、と放送しました。私たちは原子炉の廃炉を恐れて、ベント、注水のタイミングを失ってしまったと考えております。

次。

事故原因の追究さえできていないのです。こんな状態で、2030年のエネルギー政策を決定していいはずがありません。本当に国民的な議論を求めるのならば、電力会社も含めて、参加者を規定せず、ネット上で自由な論議の場を公開するべきです。

次。

福島県民の多大な犠牲の上に、今日本が変わろうとしています。国会前で、官邸前で、東電の本社前で、関電の本社前でも、ベビーカーを引きながら、風船片手に今でもデモが続いています。デモに参加されている皆さん、あるいはこれから参加されようとしている皆さん、子どもたちのために頑張りましょう。

本聴取会も反対派のガス抜き、そんなかたちで終わらせてはいけません。平和を求める人々の聖地、ここは広島です。この広島の地から、エールを送ります。

◎司会者

どうもありがとうございました。4番の方、そうしますと今お配りいただいた紙は、きのう使われたものということですね。

◎意見表明者 4

そうです。

◎司会者

つまりインターネットで、きのうのアーカイブを見ていただければ、きのうの意見はそれはそれで分かるということでございました。

続きまして、意見表明番号 5 番の方、お願いいたします。

◎意見表明者5

広島県山県郡安芸太田町、浄土真宗僧侶、住職Dと申します。

◎司会者

3つのシナリオ以外ということで。

◎意見表明者5

ええ、3つのシナリオ以外。私は即刻原発をやめてもいいのではないかという意見です。なぜかと言うと、小出裕章さん、京都大学原子炉実験所助教、その方の監修され、また紹介された資料を見ますと、今から5年前2007年の日本全体の電力、使ったのが大体約1兆キロワットといますね。そのときに、原発を一切やめて、原発以外の電力を全部使ってどれだけ可能かと、なんと1.6兆キロワットアワー、だから6000億キロワットアワーが原発以外で十分余っていると、こういう資料を出しておられるんですよ。だから絶対に、今即刻、原発をやめても絶対大丈夫だと、こう言い切っております。本もありますけど、それにも書いてあるので。私そういうところで、全くそうだろうと、こういう思いがするわけです。

それと、私自身はものの見方といいますか考え方、これから私たちはどういう社会、どういう世界を目指すかということを考えますときに、どういう世界観、社会観という。私が思いますのは、できるだけものはやっぱり誰かが独り占めするということではなくて、公平に分かち合うと。公平に分かち合って、戦争しない、殺さない、奪わない、差別しないと。やっぱり思いやりであるとか、暖かさであるとか、命の尊厳とか、人間の尊厳を大事にする社会、格差がない社会。だから誰からもうらやましいとかうらやまれるということがない、そういう世界や社会や文化を、やっぱり私たちは願いたいもんだなという、そういう思いがあるわけです。

でもそれは非常に少数かもしれません。圧倒的多数は、もうとにかく力として最強の核兵器を持つと、危ないけれども放射線の最高のエネルギーの原発を持つと、そういうかたちで非常に生命の危険が、危ない状況があるわけでしょう。そういう考え方というものには私はやっぱり、もっとものを公平に大事にして、人間の尊厳とか、人権とか、そういうものを大事にする、そういう社会をみんなが、政治家の方々も、実業家の方々も、日本だけでなく世界中が、みんながそういう人間らしい社会というんでしょうかね。あまりにも

獣の弱肉強食の社会じゃなくて、そういうことをやっぱり願うことはいかんもんだろかなと、そういうことを思っております。

そこで原発の問題ですけど、先ほどもいろいろ皆さまが言っておられたように、本当に今、地震列島でいつ大変な大地震の三連動ですか、それが起こってくるか分らん。そうなりますと、小出さんも言っていましたけども、福島第一原発の4号炉なんか、あれ使用済みの燃料があるわけでしょう。あれが冷却ができなくなったらもう日本は終わりです、日本はおしまいですと言っていましたよね。それを専門家が言ってるわけですから、大変なことじゃないですか。浜岡原発だって今止まっとるけど、あそこにもやっぱり使用済み燃料があるわけでしょう。あれがガラガラといったら、また終わりになるんじゃないですかね。こんな危険な状況を残しておいて、放っておいていいんかなという思いが。

もう一つは、原発の差別の問題だとやっぱり思いますよね。ウランを採掘する原住民の人たち、現地のオーストラリアのアボリジニの人もそうらしいですけど。そこで労働される方もそうですよね。そしてご存じのように原発の今、私たちは福島のところで大変な過酷な被ばくを受けながら労働しておられる下請け、孫下請けの人たちのことですよね、ことを思っても。そして僻地という所に原発があるということも、さっきいろいろ言っておられたけど、私思うんですよね。もし事故があったら、大都会の人はたくさん死ぬから困ると。だから大事故があったときには、すみませんが過疎地の人、死んでくださいね、ちょっとそのことを言ってるような気がするんですよ。だからお金あげますからと。そういうことになると、本当に過疎地の差別ということも思ったりもいたします。

特に、言っておられたけど高レベル廃棄物、全トイレのなきマンションで、処分場もどうしようもなく、どんどんたまり続けておるということでしょう。これ本当に、未来のこれからの私たちの子孫に対して、大変なことを残すわけでしょう。小出さんなんか、100万年放射性廃棄物はちゃんとしなきゃならないんだということも言っておられますよね。

それから聞きますと、九州の玄海原発ですか、あそこは非常に危ない。圧力容器が温度が下がると、脆性破壊って言うんですか、ガラス状に粉々に壊れてしまうと。これ大変危ないんだと。圧力容器ですよ、あそこの中の。あそこが劣化していくんだと。今でも大変劣化しとるのにもかかわらず、温度が下がると、壊れて放射線が飛び散ってしまうと。このこともあるということも言われておりますし、私はこういうようなものは本当にもう早く、即刻やめていいと。

反論してもらいたいんですよ、私は。政治家の方々も、電力会社の方もおるか分らんけど、小出さんが言ってること、「即刻やめても大丈夫です」と、専門家が。それはいろいろ専門家はおられるだろうけど、小出さんは言っておられる、即刻やめても大丈夫だと。そのことについて、はっきりと「いや、それは小出さん間違ってますよ」と言うて、訴訟なりとなんなりと訴えられたらどうかなと思いますですね。

とにかく私たちは原発ということ、さっきも言われたように、ウランに核兵器がつくられるわけですよ。元防衛大臣でしたかね、石破さんも言っていましたよね。原発を動かしたら

ば核抑止力になるんだと。日本だってすぐ原発でも水爆でもつくるぞと。だから原発はやめられないんだと。だから防衛族というか、そういう人たちというのは、日本は核武装をどこかで残しておきたいと、だから原発はやめられないんだというのもあるようですからね。そういうことを含めて、私は本当に大きなこれは問題であると思いましたですね。

とにかく、くどいようですが小出さんがずっと、40年間ですか、脱原発を一貫して言ってきた、とにかく即刻やめて大丈夫だと、こう言い切っておられるんですから、皆さん、専門家の皆さん、反論されたらどうかと思います。以上です。ありがとうございます。

◎司会者

ありがとうございました。

続きまして、意見表明番号 6 番の方、ゼロシナリオとお伺いしております。よろしく願います。

◎意見表明者 6

こんにちは。Eと申します。

まず初めに、このたびの震災および原発の被害に遭われた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

私の仕事は、広島市議会議員でございます。住まいは広島市の西区です。家族は妻と 12 歳になる息子がおります。きょう、ここに来る前に息子に「頑張ってるね！」って言われたので、ちょっと嬉しかったです。

私は、原発ゼロシナリオを希望します。先日広島市の松井市長は、3つのシナリオについて、個人的には意見があるがとした上で、「どの案も今以上に原発に依存しないという方向では良いと思っている。エネルギー政策は、第一義的に国の責任で選択すべきだ」と明言を避けられました。私はあえて個人的な意見を、政府に対して申し上げたいと思います。

広島市民の声の多くは、5月5日に日本の原発が全て停止したことで、今後の日本経済に悪影響はないのかという不安に満ちたものでした。実際に大飯原発の再稼働までに、本当に国民生活に何らかの影響が出たのでしょうか。専門家や評論家と呼ばれる方々は、皆それぞれの意識や感覚が異なり、これらが電波や活字となっても、国民は理解に苦しみ混乱を招きかねません。マスコミにおいても、原発反対のデモ、参加者数の数字はバラバラであり、国に至っては日替わり弁当のような、方針が変わるのです。

私は本当のことが知りたいのです。原発を廃止すると誰が困るのか。官僚でしょうか。電力会社でしょうか。または電力会社の出資で成り立っている会社でしょうか。本当に困るのは一体誰なのか。

この広島市にも福島原発の被害により、多くの方が避難されて来られています。国は、このたびの原発事故から多くのことを学ばなければなりません。基準となるのは、国益だ

けでなく、国民益です。私は一人の日本人として、このたびのような安全に無頓着な人災を絶対に許せません。節電などの努力により、原発依存から脱却でき得る可能性が少しでもあるならば、私はゼロシナリオを希望します。

電力の不足により経済が停滞すると考えられるならば、知恵やアイデアを出し合いましょう。その知恵やアイデアにより脱原発を実現して、世界中から賞賛される日本となりましょう。世界に規範を示す日本となるべきです。

最後になりますが、先日愛媛県の伊方町にある伊方原発の視察に行っていました。四国電力の社員の皆さまは、誠意をもって住民の皆さまへ原発の安全性を発信されていました。そして地元住民にご理解があることも、身をもって体験していました。地元の半数以上の方が原発にかかわりを持ち、生活を原発に頼っているところがあります。原発と同様に、安全なエネルギーで生計が立てられた場合、二つのエネルギーの選択で原発を選ぶとは到底思えません。

そしてこの伊方原発で福島第一原発と同様の事故があった場合、私の住む広島にどのような影響があるか調べてみました。伊方原発から広島市まで、わずか 100 キロ。今のこの時期だと、4 時間から 5 時間で放出された放射能が到達します。台風などの暴風域に入れば、たった 1 時間。放出された放射能により、広島市だけでなく、内海である瀬戸内海は汚染され、広島から人は離れていくでしょう。避難に間に合わない方が出てくることも、容易に想像がつかます。過ちを繰り返さないでいただきたいのです。

続いて疑問なんですけれども、このたびの意見の吸い上げから決定まで、どのように進んでいくのでしょうか。ゼロシナリオを含め 3 つのシナリオがありますが、それぞれ一方的に意見を主張するのみでは議論になりません。20%シナリオや 25%シナリオで多くの国民を納得させることができない場合は、必然的にゼロシナリオでエネルギー施策を進めていくべきだと考えます。以上です。ありがとうございました。

◎司会者

ありがとうございました。続きましては、意見表明番号 7 番の方、20～25 シナリオと伺っております。よろしくお願いします。

◎意見表明者 7

こんにちは。この意見を発表してくれという、予備人という連絡を頂いたのが木曜日、夕方。欠席が出たので発表してほしいという連絡を頂いたのは金曜日。だから、まさか当たるとは思わないから、予備人になった時点で、もうこれ以上ならんと思ってるから、考えてません、はっきり言って。だから直感で話します。

きょう、私あんまり数字というものは、大きな数字はごまかしやすい、小さな数字はごまかしにくいから、ちょっと数字はあまり当てにせんでいきますけど、来場したいという人が 257 人、来ていいよと言った方かな、入場を許した人間が 127 名、来た人間は 76 名。この

程度の関心なんよ。茶番劇やからよ。みんなこの程度の関心しかないの。

だから僕は思うんだけど、僕は25%でも原発100%でもいいと思う。人間が欲があるんだから、皆さん全部欲がある。僕も欲がある。今日よりも明日、明日よりもあさって、とにかくもう上に伸びてかな意味無いんやから。そんなことしてたら、もう人間滅びるしかないんよ。100年先に滅びるか、25年先に滅びるか、どっちみち滅びるんやったらいつでもいいと僕は思う。極論かもしらん。僕はいつも極論言うて、人から「おまえは極論ばっか言う」とる」。

だから原発が怖かったら文化的な生活やめたらいい。僕は思う。電気をばんばん使って、何でもかんでもあれやと。補助金ばんぼん出して、物を生産さしてみたらいい。雇用率を悪くするために、産業用ロボットに補助金出して働く人間を少なくする。おかしい話やん。

僕は思うんだけど、考えてみたら4つの調査報告書が出てきてはる。何が何やらさっぱり分からん。みんな言うところが違う。結果も違う。これを徹底して追及しようとしんない。全部自分自分の立場だけ。だから自分自分の立場やったら、もう好きなようにしさいと。流れるように流れていきやええんと違うと。これしか言えへんでしょ。

こんなこと言うところ、みんな理想論は言うんやけど、現実には違うんよね、現実には。みんな理想論だけで、0%理想結構な理想言うてるけど、やっつことは理想と違うやり方やっつる。洗濯機、冷蔵庫、クーラー、夜わざわざ電気つけて野球しとるばかもおる。

極端な言い方をしてみたら、もう人間の生き方が違うんやで。滅びていくしかないんやで、人間は。あんまり今が良かったらいいという人が多いんだから、そしたら今が良かったらそれでいいじゃん。数字にしたところで、みんなデマの発表と一緒に。当局者の発表と主催者の発表と全然違う。同じものを見るにしても、極端なこと言うてみたら、缶詰を見るにしても、底から見たら丸、横から見たら四角。そしたらみんな自分の言うところが正しいと思うてるんならば、今の世の中で持っているものがあるとしたら、それはどないもしょうがないと。

朝の集団登校の時に、車突っ込んでくるのが怖い。車を規制せな。みんな、そんな、今世の中で交通事故というのはものすごい多い。交通事故が多いからといって、みんな怖いといって、「車をやめようか」とか「車を無くそう」とか言うたこと無いでしょ。だから自分らに何ら影響の無いところで「やめよう、やめよう」と言うてるんやけど、根本を触ってないから駄目だと思います。集団登校するから突っ込まれるんやと。個人登校したら、ようけの中に突っ込まれることもないじゃん。そういう意見言うたら、「なるほどな」と言うけど、それも無い。

片っ方を立てれば片っ方が立たず、両方とも立てるわけにいかないんやったら、もう現状のままで、なるべく銭取らんようにして。訳の分からん税金や、一部の業者を、一部の人間を潤すためのような新電源の電力料金にふかされとる税金が、この前からふかされ

たでしょ。ああいうものは取らないでほしい。設置できる人もいや、設置できない人もいるんよね。マンション住まいやったら設置できないよね。そしたら設置できない人から、設置できて恩恵を被る人のために金取るようなことやめてほしい。みんな微々たる金やで、しょうことなしに取ってるけど。

政府やってそうよ。皆さんそやけど欲があるんよ。その欲が一番のくせものなんよ。その欲は、みんな人の業で捨てられんのよ。絶対に捨てられんのよ。きれい事言うとしても、みんな欲あるんよ。みんな欲あるから夜でも働いてる。昼でも来て、ここまで、いろんなことやとる。あなた方だってそうよ、全部。そしたら、この欲を捨てられないんだったら、今が良ければいいじゃないかというかたちで過ごしてかなあかんというんが居直った論理と違いますか。世の中で一番悪いのは宗教と欲よ、人間の心の。それはもう絶対捨てられない。そしたら今のままで一番金のかからない方法、費用のかからない方法でやっていただきたいというんが僕の意見です。以上です。

◎司会者

ありがとうございました。続きまして、意見表明番号 8 番の方、ゼロシナリオと伺っております。よろしくお願いします。

◎意見表明者 8

市内西区に住んでおります会社員の F といいます。ツイッターでは「J_Tano」というので反原発の発言をしてますし、今ちょうど 2 時からスタートで、3 時まで原爆ドームからツイッターデモで、今反原発デモで回ってる最中で、そっちに行きたいような気もしたんですけども、せつかくの機会なので発言させていただくことにしました。

頂いた資料の 5 ページのところに核燃料サイクルのことが書いてあって、再処理も直接処分もあり得ると、15%シナリオ、それから 20~25 シナリオのところに書いてあります。

ですが、もんじゅが建って 30 年になりますが、再生処理の技術は確立しておりません。確立してないものを将来のシナリオとして載せるのはなぜでしょう。できないことを書くのは筋が違うと思っています。

それから、もんじゅ自体も今税金をがばがば使ってるという認識はたぶんあると思うんです。当初の計画からもう 5 年延ばし、10 年延ばし、20 年延ばし、すごく延ばして本当にできるんだろうかというふうにみんな思ってると思います。それをシナリオの中に組み込まれるというのはちょっと納得いかないなと思いました。

それから再生可能エネルギーの件なんですけど、私は太陽光発電、風力も素晴らしいと思うんですけど、地熱とか、あとダムを造らなくても済むような小規模水力の可能性もかなりあると思っておりますし、今まで極端なことを言えば原発にばかり投資してきたから、技術革新が小規模水力発電、あるいは地熱、太陽光に対して起こってないんですね。投資をちゃんとしてあげてください、地熱、小規模水力、太陽光発電に対して。そうすれ

ば必ずリターンがあります。というのは、原発はつくって 54 基なんですよ。54 回しか試せないんです、実践で。ところが太陽光発電は二万何千度。何回も何回も悪ければ直せる。次の年には新しいものが出てくる。

それは家電と一緒にです。携帯は、30 年前はこんな大きい電池でしたよね。今これで電話かけられるし、インターネットもできるんです。というのは、みんなが使ってるからなんです。何回も何回も使うことによって技術は革新してきます。だけど、原発は 1 回つくっても次のプランまでないんです。

例えばこのシナリオ、原発 25%新規につくるとして、東電管内につくれますか、今この状況で。一番消費する東電管内につくれないんですよ、反対がひどくて。福島なんかつくれないでしょ、原発。すごく欺瞞だと思ってるのは、原発は今 54 基のうち、福島の 1 号炉、4 号炉は廃炉が決定したんで今 50 基ということになってます。なぜ 5 号機、6 号機は廃炉じゃないのか。それは東電の財務状況が悪くなるからです。だって 5 号機、6 号機で発電なんかできないでしょ。

僕のレジュメに書いてあるんですけど、原発問題というのは、原発を止めちゃう、二度とつくらないということになっちゃうと、それはもう発電所でも何でもないので不良債権になっちゃうんです。不良債権になると電力会社はつぶれます。裾野の広い産業なんで、関連してる企業も倒産するし、それから原発に頼ってる地域住民、あるいは原発だけじゃないいろんな雇用の問題が発生します。これは目に見えてます。

だから政府は正直に、原発をやめると電力会社がつぶれるから、それをハードランディングでもう危険だからやめちゃうのか、それとも長期にわたってスキームつくって雇用を守って、もちろん今みたいに総括原価方式でがばがばもうかるなんてことはあり得ないと思うけども、「雇用は守るから原発はやめましょう」というふうに、ちゃんと正直なことを言っていたか、どちらかだと思うんです。

僕は本当に原発は怖いと思ってるし、なぜかという JCO の臨界、それから刈羽の事故、それから原発事故ではないけれども、阪神・淡路大震災とか、それからインドネシアの津波、ペルー沖の津波、全部あった話でみんな見てたはずなのに、「想定外」ということを言っちゃってるわけですよ。それは想定外なのか、本当に。想定外というのが、原発という 1 つの県をめちゃくちゃにすることに対して言っているのかという話なんです。

なので、2030 年というのはソフトランディングを考えればしょうがないかなということなんですけど、僕の意見としては即刻廃炉、もうゼロにしたいという気持ちはあります。ただ、議論は要ると思ってます。以上です。

◎司会者

ありがとうございました。では、意見表明番号 9 番の方、3 つのシナリオ以外のご意見と伺っております。はい、そちらのマイクをお願いします。

◎意見表明者 9

失礼します。広島県神石郡から来ました G と申します。自営業です。大変申し訳ないんですが、この話を正式に頂いたのがきのうだったもので、なかなかいい資料が集まらなくて、ちょっと今日は軽い話をしてしまうと思うのですが、ご了承ください。

ちょうど今子どもたちは夏休みです。パブコメでは子どもたちからの意見もオーケーと聞いております。それでネットでは、「夏休みの宿題にパブコメを書こう」というようなキャンペーンもやってらっしゃいますね。そうなんですが、ちょっと今回の電気のことは大人でも難しいんだから、子どもたちには到底分からないと思っています。

そこで、きのう早速ですけども、小学 6 年生の私の娘と一緒に、子どもでも分かる電気と発電と原発の話をつくってみました。この話の中には電気という言葉は一切使っていません。電気というのは結構身近にあるんですけども、どうも分かりにくい。そこにあっても実態がつかめないし、存在が分からないからというものもあるんでしょうから、「電気」という言葉を「水」に置き換えて話をつくってみました。水です。飲み水ですね。ちょっと聞いていただきます。子どもですから、できれば経済とかそういうのは置いていただいて、素直な気持ちでちょっと聞いていただければなと思います。それでは始めます。

あなたは魚釣りが大好きです。きょうは船に乗って海で魚釣りです。ところが、海の真ん中で大きなクジラとぶつかって船が壊れてしまいました。周りに陸は見えません。あなたは助けが来るまで 1 人で生きていかななくてはなりません。運良く食べ物はたくさんあります。料理するためのカセットコンロもあります。

ただ、困ったことに、クジラとぶつかってしまったショックで水の入れ物が壊れてしまい、水がすっかり無くなってしまいました。頭の良いあなたはすぐに思いつきます。雨をためて飲み水にしよう。けれども、雨は全然降りません。頭の良いあなたは次を思いつきます。カセットコンロで海の水を沸かして、その湯気を集めて飲み水にしよう。いつでも火がつくカセットコンロは、いつでも水をつくってくれました。

ちょっと話は飛びますね。大きいクジラとは、大きい地震です。水は電気、雨は自然を使った発電、カセットコンロは火力発電です。

続けます。カセットコンロのガスが無くなりました。水はすっかり無くなりました。頭の良いあなたは有名なあの話を思い出します。自分のおしっこを飲むんです。あなたは思い切ってコップに入れた自分のおしっこを飲もうとしました。その時です。イルカがあなたにこう話しかけました、「あなたの缶詰を 1 つくれたら、代わりに水を持ってきてあげるよ」。大切な食料ですが、あなたは缶詰と水を交換することにしました。

飛びますね。自分のおしっことは 3.11 前の私のイメージする原発です。そしてイルカに渡した缶詰とは、電気料金値上げ、節電、価値観、ライフスタイルの見直しということになります。

戻ります。イルカが来なくなりました。水はもう 1 滴もありません。あなたの喉はからからです。もうおしっこも出ません。よく頑張ったあなたは、ふと思いつきます。そうだ、イルカ

がやってくる前のおしっこがまだある。コップまでたどり着いたあなたは「あつ」と声を出しました。コップのおしっこはもう腐っていたのです。今あなたに質問します。あなたは、この腐ったおしっこを飲みますか。12歳の私の娘は、かなり悩んで「飲む」と答えました。

この腐ったおしっこが、ちょっと言葉は悪いですけども 3.11 後の私のイメージする原発です。この話からすると、どうしようもなかったら原発の電気を使いましょうということになります。

戻ります。最後に 1 つあなたに質問します。腐ったおしっこを飲んだ後に出るあなたのおしっこは毒のおしっこになります。もうそれを飲むことはできません。それだけでなく、その毒のおしっこのそばにいただけで、あなたは病気になってしまいます。それならば早く海に捨ててしましましょう。けれども、そうすればイルカが病気になるかもしれません。あなたの大好きな魚たちが死んでしまうかもしれません。あなたはこのことを飲む前から知っていたら、毒のおしっこになるということが分かっていたら、あなたは腐ったおしっこを飲みますか。この答えは、娘にまだ聞いておりません。娘は実は今 1 人で、6 年ですけど、さっき言われた原発のデモに出ています、たった 1 人でね。

私の意見は、お手元の資料にありますとおりです。9 番ですね。なぜ今現在でも電気が足りないの、誰もが納得できる真実の答えが出ないのでしょうか。推進派、反対派でいろんな意見があります。この部分で意見が大きく変わるのはい明らかです。誰もが正しいと納得する答えを司法の場を使っても出してほしいです。隠し事やうそが多過ぎて、いろいろなことが信用できなくなってるのは事実です。真実が知りたいです。

私たちは今、それから今後も本当に腐ったおしっこを飲まなければならない状況なんですか。これが全く分からないですね。素人考えですが、今のこの時代に正しい数字が出ないわけが無いと思うんです。足し算、引き算の問題だと私は考えているんですが、それが既に誰もが認めるような正しい数字が出ているのか、出ていないのか、出さないのか、出せないのか、それが知りたいと思います。以上です。

◎司会者

ありがとうございました。続いて、意見表明番号 10 番の方、20～25 シナリオと伺っております。お願いします。

◎意見表明者 10

私は 20～25 にサインをしております広島市から来ました高齢者の H です。私は、原爆投下時は国民学校 5 年生、当時の広島市の郊外で黒い雨を浴び、汚染された土壌で作られた米、野菜を食べてきた者として、この原発問題については一部は反対の理解もできますが、関心は持っております。

振り返ってみますと、約 1100 年前に東北の貞観地震、これは天罰ですかね。巨大な災害がありました。その再来じゃないかと今言われてますね。東北地震は、ご承知の

ように巨大な地震、津波。その上に人間が開発した原発の問題。これはまさしく石原都知事が、「おごれる日本人に天罰が当たったんじゃないか」と。それともう一つ、今世界的に非常に地震の活動期、さっきも出ましたスマトラとかペルーとかいろいろあるんですが、ある意味では天災なんですね。この震災をいかに克服するのが、日本人の与えられた大きな課題ではありますね。

原発に焦点を当てて考えますと、確か昭和 40 年代から原子力の平和利用ということで皆さん賛成をしたんでしょ。どんどん、さっきも出たように、原発は沖縄無しで全国各地に 54 基あって、それが北海道の泊原発ですか、あれが停止されたら全部今止まっておるわけです。

そしたら全面停止になった時に、日本の社会はどうなるかも考えてみますと、本当に怖いなど。製造業で生産された物が、日本は貿易立国です。輸出は恐らくコスト高で駄目でしょう。そうすると働きおる人は賃金カット、新規採用は駄目。そうすると給料は減つとるから物も買わんようになる。ジレンマでぐんぐんぐんぐん落ち込んでいくのじゃないかなと、私はそういう心配をしやれんです。

日本はいわゆる地震多発国で、それから発電所は海岸近くにあるわけです。それを再稼働するには、私はやっぱり安全性の確保というのが非常に大切だということは思います。津波対策なり、今話題になっておる活断層の問題なんかを十分に再調査をしながら、ある程度原発の稼働は認められざるを得ないんじゃないかという意見なんです。

それからもう一つ皆さんよう考えてみてくださいよ。電力会社の使用しとる燃料から見ると、一番いいのは化石燃料。輸入品でしょ、LNG、石油にしても。価格はどうなってるんですか。今、足元見られてどんどん上がって行ってます。これは化石燃料が恐らく 3 分の 2 ぐらい占めてますね。原子力はいろいろ各社によって違うから、さっきのあれは 10 年が 26 パーで上げられた。あとはあれでしょ、再生可能エネルギー。風力、太陽光、いいことです。ですが、気象条件による。安定的にどこまで得られるんだらう。蓄電池の問題もあります。そういうものを考え、ああ、どうなるんだらうかなと思います。特に原子力のウエートの高い関西電力が大飯原発の 3 号、4 号を稼働するのは、もうやむを得んのじゃないかと考えます。

例えば東京電力の値上げについても、8.47 だったですか、カットされましたが、国有化されるんでしょ。そしたら今度、今のような化石燃料が値上がりしたら、その負担は国民が負担するんでしょ。そこらをよう考えて、それは今日も皆さんのご意見を聞いて非常にご無理ごもつとも、いいことです。でも、それで日本というのは存在するんでしょうか。

私はですから、その安全対策というのは非常に必要ですが、必要悪じゃないなど。あれでしょ、GDP がついこの間まで第 2 位といわれたのは、ある意味では原子力の燃料が一翼を担ったわけじゃないですか。それをゼロとか 15 に下げて、2030 年はまだありますが、その間にどこまでできるんだらう。ある程度必要悪として認めざるを得ないし、再生エネルギー、あるいはどんどんある程度回数が進めば、それに私は反比例して原子力の

ウエートは下げていくべきだなという、私も被爆者の 1 人として、私はそう思っております。

矛盾するかと思いますが、一番問題は新興国。中国からインド、パキスタン、ベトナム、こういう所はみんな原発を進めるわけですよ。そしてスマイリー島のあったアメリカでもまた開発されてる。そうすると日本というのは孤立、どうなっていくんだろうかなと心配しております。原発は駄目よ、駄目よ、電気料金の値上げは駄目よ。そしたら当事者はどうすりゃいいの。ここは国民 1 人 1 人がよく考えないと、付和雷同してもらったら困ると。それで現実はどういう、例えば家庭電力の問題でも節電をどれだけ自らやっておられるか、そこが聞きたいです。以上です。

◎司会者

ありがとうございました。続きまして、意見表明番号 11 番の方、15 シナリオとお伺いしております。よろしくお願いいたします。

◎意見表明者 11

15 シナリオということでの、ああ、そうだ、東広島市から参りました」と申します。私はそれこそ補欠ということの連絡を木曜日に受けまして、さっき 1 時過ぎてからです、「すみません、発表してください」と言われたの。それで全く準備不足は否認しません。簡単なレジュメを持ってただけで、発表する機会は無いついてきてますんで、本当にちよつとなるべく情緒的な文明批判にならないように努力はいたします。

私の 15%というのは、2030 年で福島以前に戻るといふのはあり得ない。かといって 2030 年に 0%というのも、これはいささか無理な話なんじゃないかなというふうに考えています。0%がなぜ無理かということなんですけれども、やっぱりそこにあるのは福島を入れて 54 基の原子炉があるんです。それから気が遠くなるほどの使用済み核燃料がこの国内にあります。それをどうにかしなきゃいけないんですよ、何百年かけてでも。そのために誰がやるのかという話になる。それから、そのための技術、処理をしようとする意志をどうやって持続し続けるのかということ考えたときに、やっぱり電力会社に責任を持ってもらわないと困るんですよ。

それからもう一つ言えるのは、電力会社がつぶれちゃったら困るんですよ。原発を本当に全部廃炉にして、資産管理のさっきの話じゃないですけども、電力会社はつぶれるんです。だから電力会社が体力としてどの程度あるかどうか分からないけれども、やっぱりやってももらわないと困るんです。それは税金からのというのももちろんある。国民みんなが負担しなきゃいけない問題なんですけれども、そのためには 2030 年に全停止という状態を、全廃炉というのは、やっぱり私は技術を残すためには無理なんじゃないかなという感想を持っています。それと電力会社は、一応それを細々ながらもやっていけるだけの体力は持っててもらわないと困るというのが、0%に対する無理かなと思う私の考え方で

それから、もともとといいます、だから 15%じゃ無いんですよね。私その他の意見だったんじゃないかなと思ってます。それこそ本当に戦後原子力発電というのがアメリカを中心に、それからアメリカも日本へ、それこそ初めは広島市内に原子力発電所をとという話があったのに、そしたら当時のトルーマン大統領が、「広島市に原発をプレゼントするという話は、原爆を落としたことへのおわびになってしまう。それが嫌だ。わびるつもりは無い。それが嫌だ」というので、この話が無くなったという話を聞いたことがあるんですけども、要するにそれから順次原子力発電、原子力の平和利用というのをどんどんやってたんですけど、進んできたんですけども、いまだに放射性物質、放射能というものを人類は扱いきれてないですよ。大概のことというのは、例えば薬なんかでも、薬が毒だとすると、その副作用やら何やら治験をいろいろやって、これこれこうだからこうで、じゃあ許可しましょうという。そういうテストも何にも無しに、何の技術も無しにおっぱじめたのが原子力の平和利用という化け物だと思うんですよ。それがどんどんどんどん進んできて、それで今日に至ってるわけです。

だから私は以前から「原発を止める」と言ったことは 1 回も無いんです。ただし、原発で何か起きたときどうなるか。チェルノを見ろ。スリーマイルだつてそうだろうという。広島なんかだと、広大の原医研の渡辺正治先生はチェルノをずっと数値化して、人体への影響やら何やらデータをきちっとされてた方が、もう 5、6 年前に亡くなったんですけど、この先生は福島出身です。

そういう意味で言うと、ちょっとその辺で無謀じゃないかなと、政府の言い方、安全神話というやつが。やっぱりそれを前提とした原発でなくてはいけなかったんじゃないかと。以前から、起きたらこうなりますよ、チェルノになりますよ、ちゃんと言わなきゃいけないかった。それを安全、安全、今度も想定外という。想定外なんて、人類の歴史は想定外の連続じゃないですか。あの阪神大震災の時でも、その前にサンフランシスコで地震があつて高速道路がばたばたいった時に、建設省の偉いお役人さんが出てきて「日本は大丈夫です」と。何が大丈夫なもんかという。それは想定外だからという。でも、人類なんて想定外を繰り返しながらきたのが、想定外をそのまま想定外だからって言い逃れができるんじゃないでしょうか。

だから、要するに私はちゃんとしたことをやりましょうと。これからも順次減らしていくにしても、動かす原発に対してはちゃんとした対応ができるようなことをきちっと準備しましょうと。

最後になりますけれども、この間うちのご飯食べてたら、ソ連のあれかな、宇宙船で宇宙ステーションへ行った、名前は忘れちゃいましたけど。その時にうちのが、「そんなことしてないでイスカandalでも行ったら」って言ったんですよ。あ、そうか、イスカandalへ行きや放射能除去装置がもらえるんだという、そういう夢物語ですけど、でも松本零士って人は 30 年前に、あれは 22 世紀の末の話なんですよ。200 年以上たつても、人類は放射能をコントロールできないということを前提であの物語を書いているんです。だからやっ

ぱりそのところは覚悟を決めなきゃいけないという、それを使う以上はね。

それと、それから原発の話ばかりになりましたけども、これも家族のことなんですけども、うちの息子夫婦が30代で子ども2人抱えて首都圏に暮らしております。一軒家で暮らしています。去年の4月から電気の契約を15アンペアに変えました。それで春夏秋冬過ぎました。2度目の夏を迎えています。生活はできるそうです。少し皆さん考えませんかという。15アンペアで十分幼い子どもと30代の夫婦が暮らしていけるそうです。そのところを考えると、そしたらもう少し原子力に頼らなくても、それから産業で必要な電力は使っただいで結構です。でも、必要の無いちゃんとやれるところは1人1人がやりましようや。それでも何か怖い状況はずっと続くんですよ、それは世界中の話ですけどね。

すみません。本当にまとめきれない話で申し訳ございませんでした。以上です。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。続きまして、意見表明番号12番の方、ゼロシナリオと伺っております。よろしくお願いたします。

◎意見表明者12

Jと申します。広島市から来ました。原発ゼロシナリオ賛成ということで、息子は今3歳です。とても緊張しているので座らせてしゃべらせてください。私も時間が足りなくてレジュメをまとめることができなかつたので、簡単なお話になってしまうかと思うんですけども、次に進んでください。

2030年ですが、私の息子は21歳になります。3.11以降に生まれた子どもたちも青年になっています。私たち日本国民は3.11で原発の危険性に目覚めました。自分の問題となったのです。チェルノブイリの事故があっても、どこか遠くの事故のような気がしていました。私は被爆地ヒロシマから「被爆NO」と言いたいです。負の世界遺産、原爆ドーム、アウシュヴィッツ、2つだけで十分です。子どもの子孫の被爆をゼロにするために、原発0%に賛成です。

原発の危険性は運転していなくても変わりません。廃炉にするために今から何十年という時間が必要です。息子がまた子どもを授かる時、その時でも廃炉作業をしている原発は存在し続けます。日本は地震大国です。危険な原発を運用するには向いているとは思えません。また3.11以降、地殻活動も活発化しています。原発は存在するだけで危険なのです。今からできる廃炉のステップを踏むべきだと思います。

次に進んでください。原発を0%にするためにちょっと考えてみました。皆さんもおっしゃっているように、今まで当たり前のように使い過ぎていた電力を節約する省エネ、これは日本の得意分野なのでできると思います。そして今原発交付金に依存して生活をしている人たちがいる原発立地地の経済的な独立を助けることが必要だと思います。まず原発をクリーンエネルギーへの産業構成のシフトを行って、原発立地地で研究をしたり、

1 番に書いてありますね、廃炉のステップ、これだけでも数十年のプロジェクトになるということですので、原発立地地の方のお仕事はあると思います。最終処分場も決めていないので、本当にこれだけでも大きな仕事になります。そして新エネルギーの開発といったことが考えられると思います。

ちょっと進んでください。クリーンエネルギーの普及までのつなぎ。クリーンエネルギーは、皆さんいろいろ太陽光とか風力とか地熱とかおっしゃっていたんですけども、波の力の自然エネルギーというのもありまして、日本は海洋大国ですので可能性は十分にあると思います。今までの方がおっしゃってなかったのも、波の発電ということもちょっと付け加えさせてください。

クリーンエネルギーはすぐに普及するとは思えません。そのつなぎのステップとして、日本海近海にメタンハイドレードという燃える氷のガスがあるということをご存じでいらっしゃるでしょうか。結構ニュースとかでも取り上げられたりしているんですけども、この新エネルギーは太平洋側で 500 億円を投じて研究されたそうですが、泥や砂が混じっていたり深い深海だったり実用化がちょっと難しいようなんですけども、逆に日本海側のほうではそんなに深くない海の所で、砂利や砂と混じっていないような状態で、ふつふつとあふれ出るようにメタンハイドレードが出てきていて、それを難しい機械じゃなく魚群探知機で探査して、日本の持っている土木技術で取り出すことができるということなんですけれども、こちらの研究のほうにはお金があまり回っていないようなんですね。皆さん原発かクリーンエネルギーかとおっしゃってたんですけども、この新エネルギーは日本が今一番進めるべきエネルギー開発の 1 つなんではないかと思っております。

そして次に火力発電所のエネルギー効率を高めるハイブリッド火力発電所など、コジェネレーションなどを普及させたり、逐電技術を高める。車に逐電して昼間使うとかいうCMがあつたりするように、そういった工夫をどんどん繰り返していくことによって乗り切っていくことができるのではないかと思います。

あとはもう思い切ったライフスタイルの変更。皆さまきょうはスーツを着ていらして上着を脱いでいらっしゃるんですけども、これがポロシャツで麻のズボンだったらもっと快適だと思うんです。商習慣を改めて、もともと日本にビジネススーツが入ってきたのはイギリスをお手本としてるそうなんですけれども、ロンドンオリンピックの行われているロンドンというか、イギリスは寒冷な土地なので夏でもビジネススーツで商取引ができますが、日本はもう 35 度を超える夏がやってくるんですから、みんなで商取引のスタイルを変えようというような意識を持って、一部でクールビズというのではなくて、もう全体で変えていくような、そんな工夫を積み重ねていくべきではないかと思います。

経済的な発展に原発ゼロシナリオが向いてないのではないかとということなんですけれども、このメタンハイドレードの研究などで私は補えるのではないかと考えています。そして経済至上主義で来た経済大国であることに誇りを持ってきた日本をやめて、ヨーロッパ並みの自分の国の大きさにあつた、そして私たち人間が生きている地球の大きさに合った

生活をしていくことが大切なんではないかと思っています。息子が 21 歳になった時、未来のエネルギーと未来のクリーンエネルギーで賄える世界になってほしいと思います。終わります。

<他意見表明に対する感想、意見>

◎司会者

ありがとうございました。それでは、引き続きまして第 2 ラウンドに入りたいと思います。今皆さんそれぞれのご意見を耳にされまして、この点についてご自分の意見を補強したい、もう 1 回説明したい、あるいはこの人にこれを質問したい、何でも結構です、挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。

4 番、5 番の方以外は取りあえずよろしいですか。はい、それでは今度は逆順でまいりたいと思います。では 10 番の方からどうぞ。

◎意見表明者 10

先ほど東京で親子 4 人で 15 アンペアですか、私もそれは非常にあれだなと、非常にいい意見は言われるが、具体的に皆さん本当に節電にどれだけやっておられるんだろうかなと。私の場合を言いますと老夫婦 2 人で、今もここへ持ってきておりますが、電力の使用量、これは 6 月 22 日から 7 月 23 日、32 日で 226 キロワットです。実はクーラーはまだ 1 回しか使ってないです。それで夜はコンセントを外しますよ。それから氷枕か冷凍の分の冷凍剤を首に巻いたら十分、若干 12 階の風通しがいいということもあるんですが。

さっき私は、15 アンペアでいいんだから、私のところは 30 アンペアですよ。せめて 40 アンペアとかなんかは料金をどんどん上げると。そういう努力が要るんじゃないかと。それもせずにおいて、何かと原発はゼロにせないけんじやろうで、ちょっと身勝手な言い方かな。私は怖さを知ってますよ。中学の修学旅行にも平和の話もしたこともあります。私自身は市内の一番悲惨なのは見ておりませんが、親戚の者もみんな一家全滅なんかしておりますよ。そういうことで、言うは易し、行い難しということで終わり。

◎司会者

ありがとうございます。順に伺う前に、今の意見に対してゼロシナリオの方、どなたかご意見はございますか。はい、ではどうぞ。

◎意見表明者 8

努力が足りないという話は確かにそのとおりのかもしれないんですけど、まず関電の管区内で言うと、去年 1 年でオール電化住宅を 6 万戸売ってます。これは政府のほうから関電に何の要請もされていないんじゃないでしょうか。関電が一番原発に頼ってるというのは明らかだったし、それから再稼動するなら関電の管区内じゃないといけないというのは誰

の目に見ても明らかだったはずなんですけど、関電は去年 6 万戸オール電化住宅を売ってます。

そういうところ、個人個人の努力は大切なんですけども、例えばさっき言われたような電気料金のインセンティブをつけるとか、国のほうでそういう導く努力をしていただければなると思うんです。僕は東京にも関西にも出張よく行きますけれども、省エネの努力は東京を 5 として関西 1、広島 1 です。これは東京の人は怖さが判ってるから、今、去年、今年にかけては相当努力してらっしゃいます。それをうまく政府がくみ取って活かす政策を打っていただければ、まだまだ省エネはいけると思ってます。

◎司会者

はい、ありがとうございます。ほかに。では、どうぞ、1 番の方。

◎意見表明者 1

15%、あるいは 20～25 シナリオの方から、言ってることとやってることは違うんじゃないかと、理想と現実は異なるということが言われました。それからまたゼロシナリオだと産業が衰退してしまうんじゃないかという恐れも指摘されました。僕はそれは違うと思うんですね。

まず、各家庭での努力なんですけど、これはさまざまです。ただ原因は、1 歩踏み出す努力がまだ足りないんじゃないかというふうに思っています。私どものところは 25 年間努力はしてるんですが、電気の自給率は 140%です、過去 3 年間。ですから、うちは使うよりは売るほうが多いということです。ですからエネルギー全体で自給率 100%を達成してますし、それからカーボンニュートラルというんですが、CO2 も一切出さない生活をしてます。それで昔の生活をしてるかって、そんなことはなくて、エアコンも使ってますし、テレビも使ってますし、快適な生活を送ってます、家族で。

要は、現在の技術だって、その気になってうまく使えば、あるいは生活の仕方を見直していけば、十分快適な生活を環境に負荷をかけないで原発に依存しないでできるということになる。それをやるかやらないかは、1 歩踏み出すかどうかということだと思います。

それから産業面の衰退が言われてますが、僕は、日本が原子力に力を入れ過ぎたために、再生可能エネルギーの開発が先頭を切ってたのに、遅れ、競争力を失って現在では後塵を拝してる状態。まだ間に合うと思いますんで、国がこれを機会に再生可能エネルギーに関わる産業振興をすれば、きっとほかの国と対応できるようなレベルにいくと思います。ですから脱原発によって産業が、あるいは雇用が少なくなると、日本が沈没するというのは杞憂だと思っています。以上です。

◎司会者

ありがとうございます。では、続きまして最初に挙手をしていただいた中から 7 番の方、

お願いします。

◎意見表明者 7

欲というのは切り無いと言いました。学者の欲、それから企業の欲。特に学者の欲というのはすごいんで、こんなこと知らなあかんかな、今ごろ化石って言って誰がどうなるの、太陽がどうなるってそんなことどうなるのと、そんなことにもものすごく金かけてます。要するに人間の知りたい欲が欲を生み出して、本来そこまでしなくてもいいのになということがいっぱいあります。医療、宇宙科学、原子力。それに対して補助金を出すと。補助金を出すために、売れる金額よりも、例えば変な税金をかけたり、変なことで金を取ってほしくない。それから売る金額よりも買う金額のほうが高い。そういうふうな電力の買い方はやめてほしい。

太陽光、太陽光って言うかしらんけど、太陽光を据えられる家がどれだけある？ 年寄りで 2 人住まいなんかやったら、今ごろそういう金かけたところで、これだけ元取る部分だけ生きとるかな、やめとこうかなと。同じ、そういうものを据えられる方はそれなりの恩恵を受けられるけど、恩恵を受けられない方がたくさんいらっしやるのに、恩恵を受けてない方の多いほうからも税金を取ると。要するに補助金というかな、分担金というのかな、そういうものを取るやり方はやめてほしいと思う。それだけです。

◎司会者

はい、ありがとうございました。

◎意見表明者 7

それからもう 1 つ。生きているということは、危険と擦り合わせになることやから、安全 100%の世の中なんて全く無いんやから、100%安全、安全、安全ということにはものすごく金がかかるんだから、これをどこまでが要するに許容限度かなと。あんまり安全、安全とか、危険、危険とかいうんやったら、ちょっと付き合いきれないなと、この世の中に。本音ですわ。

それで、そんなに危険が嫌だったら、もういいから 1 歩も外へ出なさんなと。だけどダンブが突っ込んでくるかも分からんよと。それぐらい車の事故のほうが多いんだから、原子力よりも車を規制してほしい。するべきじゃないかと、基本論で言うたら。あんまりきれい事ばかり言わんほうがええ。本当のこと言うたほうがいいと思う。本当のことに取り掛かってほしい、政府は。

◎司会者

はい。では、続いて 5 番の方お願いします。

◎意見表明者 5

さっき言い忘れたんですが、小出さんのことをこだわってますけど、小出さんが、電力会社が電気が足らなくなる、足らなくなると言ってるのは、これは単なる脅しですと、電力会社の。単なる脅しですと。だからさっきも言いましたように、小出さんは絶対十分足りきつてると、そういうことを言っておられる。それに対して、政治家の先生もおられるし、また電力会社の方おられるだろうけど、どうなんだろうかなと思うんですね。

それからもう一つ、ここに電力料金のコストの表があるんですよ。これを見ますと、大島堅一教授という人のようですけど、その試算によると、一般水力が 3.98。一般水力と揚水で 7.26、火力が 9.90、原子力が 10.68、原子力と揚水で 12.23 と。やっぱり原子力を使つとるが故に一番コストは高いんだと、こういうのがあって、そこらのところのこういう評価というものが間違ってるのか正しいのか、そういうことを政府のほうも電力会社のほうもしっかり賛否両論を公開で、こうしてせつかくエネルギーの問題を国を挙げてやろう言うてるんやから、大いに議論をしてもらいたいもんだと思います。

◎司会者

はい、ありがとうございます。今の 5 番の方のご意見にとどまらず、やっぱりある 1 つの説を取り上げて、これはどうなんだというような提示がたくさんあります。そういったものをひっくりめたご指摘が、2 番の方が言われた、もっと国民に分かりやすく説明するのが政府の責任だろうという部分ではないかと思います。こういった各論も含めて、もっと応えていく努力をすべきだろうというメッセージとして受け止めさせていただきました。そして 4 番の方お待たせいたしました。

◎意見表明者 4

まず、今司会者さんが始めましたが、討論型に少しずつ持っていくという指向はうれしいですね。

◎司会者

どうもありがとうございます。

◎意見表明者 4

はい。それからもう 1 つ、先ほどの方が言われていたグリーン経済、すなわちグリーンエコノミー、これはドイツのほうで既に考え方は定着しております。また地方分権に経済自体が進んでまいります。雇用も分散されます。そんなようなことを 1 回研究していただくとよろしいなと思います。

私が配ったレジュメ等で、ご意見、あるいはご質問がある方はいらっしゃいますか。会場でも結構です。ごめんなさい、残念ながら 100 枚しか持ってきませんでしたので。

それでは、最後になります。僕の見解をちょっと言います。僕は『鉄腕アトム』世代です。この中にもたくさんいらっしゃると思います。その名前のごとき、鉄腕「アトム」というのは原子力なんです。妹は「ウラン」であり、お兄ちゃんは「コバルト」です。何だい、何だい。それから一番の敵役は「プルート」です。覚えてますか。そんな私たち世代なんです。すなわち原子力に対して明るい未来、正義の味方と信じていた、そういう世代なんです。

ところが、皆さん鉄腕アトムの最終回を覚えていますか。何と地球が熱くなり過ぎてしまい、太陽活動に異常に起こり、そしてアトムは太陽を冷却するためのロケットに乗って、そのロケットも途中でちょっと故障しちゃったために、従ってアトムは最後ロケットにまたがって太陽に突っ込んでいった。そしてアトムは終わりになったというストーリーでした。

これは、実を言うと手塚さんのアトムに対するメッセージなんです。地球が熱くなることを温暖化を予想していたかどうかはちょっと分かりませんが、アトムが地球上からいなくなる。これは実を言うと、手塚さんは後になって自分は反原発だということを言っております。本当は、手塚さんはずいぶん前に亡くなりましたけども、彼のメッセージだったんです。私もそれに気付いたのはずいぶん大人になってからです。その手塚さんのメッセージというのは、今だとたくさんの方が理解できるかと思います。

私自身は、民主党が政権を取った後にエネルギー基本政策で原子力 45%を出しました。その時に、私はそれに対して反対を表明しました。理由は幾つかあるんですが、今になってはそれが世間の常識になってます。それを踏まえて、これからの政策を考えていただきたいと思います。

◎司会者

ありがとうございました。では、どうぞ、はい。

◎意見表明者 5

今日の新聞だったかな、関電の管内で、最近の猛暑の時に、だけど企業がピーク時にいわゆる電力を使わないようにすると、電力会社が電気料金を安くするんだと。そういうことで、各企業の中では、そういうように電力が安くなるならといってピーク時に下げたと、電力を使うのを。そうすると、いつだったですかね、500 万キロワット、普通の大体要るんじゃないかというのが要らなくなったとかいうのがあつたね。一番大きかったと思いますけど、その他にもあつたし。そういうことで、かなり節電ということはもっと考えるべきだろうと。必ず乗り切れるんじゃないかと。

そして、どこかの会場でも、私インターネットで見ましたけど、言っていましたね。今、大飯原発を 2 基ふかしておつてやつとるけど、これから 8 月のピークがやつてきますよね。そして今度 9 月、やってみましょう。やつて実際に日本のピーク時にどれだけ電力使うたのかと。それが出てきますからね、恐らく数字として。その時に、大飯原発 2 基を本当に動かさなきゃならなかつたのか、本当は無くて良かったんじゃないかということが結果が出る

はずだと思うんですね。そういうこともきちっと私は関心を持っておきたいと思いますし、皆さん方も関心のあるところだろうと思います。そのことを今ふと思い出しました。

◎司会者

ありがとうございます。次のご予定がおありの方は、もしかして気にされてるかもしれませんが、もうしばらくちょっとすみません。じきに終了で締めくくりますが、ちょっと1つ、6番の方、ごめんなさい、先ほどの1回目のご表明の中で、「全部止まっちゃって誰が困るんでしょうか」という問いかけがございましたが、それに対して10番の方が、「全部止まってしまったら、どうなるかとても怖い」と。あちらのピンクの方ですね。要するに、輸出はコスト高で賃金カットで物は買わなくなってというようなお話がありましたが、この議論はよく出る議論なんですけども、そういった、こうなったら本当に困るじゃないかという意見に対しては、どんなふうに再びおっしゃりたいことがございますか。

◎意見表明者 10

原発を止めてしまったらどのように生きていくのか、そういうことです。

◎意見表明者 7

死んじゃう。

◎意見表明者 10

まあ、そういうことで。

◎意見表明者 7

死ぬために生まれてきた、死ぬために。

◎意見表明者 6

ただ、そこで本当に我慢しなければいけないのか、そういった試算もちゃんとできてないと思うんですね、僕は。今後技術革新によって、今でも疑問視されてるところなんですけれども、今後自然エネルギーや省エネというものがどんどんどんどん改善されていった場合に、これはもっと快適な生活が送れるかもしれません。僕は、どんどんどんどん困っていくんだというふうには考えてないんですね。

◎司会者

つまり誰も困らないというかたちがあるはずだということですね。

◎意見表明者 6

はい。

◎司会者

誰が困るんだというのは。はい、どうぞ。

◎意見表明者 8

今、核燃料再処理ができない場合、既に 2030 年を迎えずに核廃棄物の捨て場がなくて原発を止めざるを得なくなるというふうに言われてます。これが本当のことかどうかは確証はありませんけど、私はそう思っています。なぜなら福島第一 4 号機の中のプールに、あれほど大量な核廃棄物、処理済み核燃料があったからです。

今もんじゅは成功してないです、はっきり言って。その状態で 30 年を迎えて、原発を動かさないんだったら、そのシナリオは成り立ってないんです。捨てざるを得ないんです。だから今の生活を維持できる、維持できないじゃなくて、そのシナリオはあり得ないんです、核燃料リサイクルがうまくいかない限り。30 年やってきて、うまく行ってないです。これからうまくいくという保証は何 1 つ無いです。15%、25% 自体は、今の時点で成り立ってないと私は思っています。

だから今の生活が維持できる、できないじゃなくて、もうどっちにしろ無理なんです。と思っています。核燃料の再処理がうまくいくというシナリオを示していただければ、どういう根拠でうまくいくかというのを政府のほうから出していただければ少し考えなくはないですが、再処理しても核廃棄物は一定量残るといふことも、知られてないですけど、UST を見てらっしゃる皆さんとかには知っていただきたいと思っています。

◎司会者

はい。じゃ、2 番の方お願いします。4 番さん、ごめんなさい、ちょっと何回かご発言いただいたんで。

◎意見表明者 7

飢える人間がおるか。

◎司会者

すみません、この 2 番の方をもって一応打ち止めとさせていただきます。すみません。

◎意見表明者 2

経済がどうなるのか心配だということでご発言されてたと思うんですけども、これに関して、経済が成長し続けて本当に私たち幸せになってきているのかということと、それと今の日本が定常型の社会になってきてて少子化がどんどん進んでいく中で、新たな局面とし

て新たな考え方を選択しなければいけない時期であるということも理解した上で、この原発を続けていくということは倫理的に考えても否定できないんですよ。否定不可能な事故、あるいは処理に関してもそうなんですけど、それがあつたということが私たちの生命を脅かしている。経済とかそういうのは、いくらでも変えることができるんです。選択する方法は、いくらでもあるんですね。ですから、選択する方法が無いこのものを、とにかくやめていかなければいけないというのが私の意見です。

◎司会者

ありがとうございました。本日は本当にどうもありがとうございました。

ここで司会者として一つおわびを申し上げます。今回何人かの方から、準備の時間が短過ぎるといふご指摘を頂きました。いろいろな方から意見表明のご希望を頂いてから、実際にこちらに出ていただく方を抽選で選ぶまでのプロセスの中で、表明するつもりだったけど、やっぱりやめとくわという方が出たりとか、いろいろなことが起きておまして、事務局として最大限努力をしておりますが、このタイミングに今はなっております。本当に申し訳ございません。本当にじっくり準備をしてこの議論をしたほうがもっと深まるなということ、われわれはもう重々承知しておりますので、さらに何とか工夫をする方法がないか、来週以降の会に向けて努力をしてみたいと思っております。

<大臣挨拶>

◎司会者

それでは古川大臣、よろしくお願ひします。

◎古川大臣

本日は、様々な立場から大変有意義に、ご意見またご議論いただいたこと、先ずもつて心より感謝を申し上げます。本当に意見表明者の皆さま方、ありがとうございました。また、今日は会場、大変お暑い中お集まりいただいてですね、この議論を聞いていただいた皆さま方に心から感謝を申し上げます。またウェブ配信を通じてご覧をいただいていた皆さま方にも深く御礼を申し上げたいと思ひます。いろいろとですね、本当に今日は様々なご指摘をいただきました。私ども、まだまだですね、政府の中で議論して、そしてそうした方向性とかをお示しをしても伝わっていない部分があるんだな、ということを感じました。例えば、成長のお話、2番の方からございました。2年前に新成長戦略をまとめた時に、その時にですね、これまでの成長のあり方、経済成長というのは、経済成長そのものが目的ではなくて、あくまでもそれは人々の幸福度の向上につながるものでなければいけないと、ですから、そのための手段としての経済成長が必要なんだと、そうした視点から実は2年前からですね、政府の中で幸福度のあり方についてですね、指標、これは世界でもブータンなどはもう既に「GNI」という形で発表してやっておりますけれども、世界

の中でもそうした議論があります。日本もですね、そうした議論をリードしていこうということで、OECDなんかとも協力をしてですね、この幸福度の研究というのは今スタートしております。今回、今、最終段階になっております「日本再生戦略」の中でも質的な成長を問うていかなければいけないと、社会の中ですね、取り残される人がないように、やはり経済の成長が人々の、やっぱり幸せを向上するような、そういう新しい経済成長のあり方を目指していこうと、これは先日金曜日に発表させていただいた今年度の「経済・財政白書」の中でもそうした方向性をお示しさせていただいております。このことをしっかりまた今後ですね、お伝えをしていきたいというふうに思っております。そしてコストのお話などもございました。また、自給のお話もございました。これはたしかに様々専門家の方たちの中でも、今日は小出先生のお話もございましたけれども、いろんな方々の、いろんなご意見がございます。そうしたものをですね、私ども、これはですね、しっかり議論していこうということで、コストにつきましては昨年、「コスト等検証委員会」というのを設けて、先ほどちょっとお話に出た大島先生なんかにも委員になって入っていただいてですね、コストの検証をいたしました。それ以前は原発というのは安い電力だと言われていたんですけども、この「コスト等検証委員会」の中で結論としてなったことはですね、原発は決して安い電力ではないと。ですから今の原発のコスト、最低でも9円以上になると、上限はどうなるかということですね、これはあの社会的なコストや様々なそういうがあるので、上限は分からないけど少なくとも9円以上までにはなると、下限をですね示して、むしろ安いわけではなくて、これ以上の高さになるんですということをお示しさせていただきました。この議論は全て公開で行いましたし、そこでの計算をした結果等については、これは今、今回のですね、国民的な議論をしていただくために設置をいたしました「話そう エネルギーと環境のみらい」と、このウェブサイトからでもですね、行っていただいて、きちんと皆さま方に見ていただくこともできるようになっておりますので、ぜひまたそうしたところも見ていただければというふうに思っております。また需給の問題につきましても「需給検証委員会」というのを設けて、これもですね様々な意見がありました。そういったものもですね、議論した結果、そうしたものについては資料も含めて全て公開をさせていただいております。これがきちんとまだまだ伝わっていない部分については、しっかりまた今後ともお伝えをしていきたいと思っておりますし、ぜひ皆さま方においてもですね、今回の国民的な議論というのは選択肢をお示しをして急に始まったわけではなくて、昨年からですね、それぞれの政府の中の専門家の皆さんに集まっていた議論、そうしたものも基本的にオープンにして、その資料などもお示しをして、既にマスコミなどでも報道されてまいりましたので、そうしたものも踏まえて、既に議論が始まっている中で、こういう専門家の方々の皆さん方の議論を踏まえた形で、今回シナリオというのを示させていただいて、それを軸にして今日のようなですね、国民の、一般の皆さま方のご議論をお願いをしているというところでございます。そういった意味ではぜひ、これまでの専門家の方々のでのどんな議論があったのかということも、この機会にまた皆さま方においても関心をもっていいただければという

ふうに思っております。さらにグリーン成長のお話もございました。今、最初に申し上げましたけれども、福島原発事故を経て、原発に依存しない社会を作りたいと、それは多くの皆さん方の想いだと思います。それを実現する大きな方向は原発からグリーンへと、再生可能エネルギーやですね、今日もお話がありました、もっと省エネルギーできるんじゃないか、あるいは蓄電池も、とお話もございました。まさにそうした方向をですね、これを大きく進めていかなければいけない。そうした視点から、先日「グリーン成長戦略」というのもまとめましてですね、その中では蓄電池を促進するための「蓄電池戦略」というのもまた特にまとめたりもいたしております。これをベースに致しまして「グリーン政策大綱」というのを年末にはまとめる予定であります。こうしたですね、グリーンの部分に特化をして、ここに思い切った形の政策を集中投下をしていこうと、これは今回の事故が起きたということももちろんありますけれども、実は2年前の新成長戦略の中でもですね、グリーン・イノベーション、ライフ・イノベーションとともにですね、これは日本の新しい成長の大きなメインエンジンにしていこうというふうに考えておりました。今回の事故を受けてさらにこの部分をですね、新たな、後ろ向きな形ではなくて、むしろ前向きにですね、この制約をバネにして、新しい経済成長をグリーン分野で実現をしていくんだと。今度の「日本再生戦略」の中でもグリーン成長はもっとも最重要な戦略として位置づけております。こうした部分をしっかりやっていく、そのことによってですね、ぜひエネルギーの構造を変えていきたいというふうに思っております。最初に申し上げましたけれども、今、私どもが目指している、そしてこれから私たちが作ろうとしているエネルギーの社会は、従来のように一部の大手企業とかなかなかですね、エネルギーを作っていくとか、あるいは供給していく世界ではなくて、一人ひとりの皆さま方にもエネルギーを作ったり、あるいはそれを貯めたり、また節約したりという形で参加をしていただく、そうした集中型ではなくて分散型のそういうエネルギーシステムを作っていくというふうに思っております。そのためには様々な電力のシステム改革であるとか、あるいはこの7月から始まっております「固定価格買取制度」をはじめとするですね、そうした新しい政策というものもしっかりおこなっていかねばいけません。同時に、こうした政策とともにですね、皆さま方の一人ひとりがそうしたことに参加をしていただき、そして行動していただくということも重要となってまいります。そういった意味では、今回の議論というのはまさに新しいエネルギー構造を作っていくためには、国民の皆さま方一人ひとりの参加、そして意識を持ってもらうことが極めて重要であって、それが不可欠であると、そうした視点からこのような形でですね、これまで専門家の中だけで議論されていたエネルギーの問題について、一般の方々にもご議論いただくという形をとらせていただいております。今日は意見を希望されながら、残念ながら意見をさせていただくことができなかった皆さま方におかれましては誠に申し訳ございませんけれども、ぜひそうした皆さま方のご意見、またアンケートの方にお書きをいただければと思っております。しっかり私どもですね、そうした今日のご意見や、あるいは皆さま方のここでお書きいただくアンケートのご意見、さらにはパブリックコメント、そうし

たものを踏まえてですね、様々な意見を皆さま方から聞いて、それをまた整理をしていく、そういう中ですね、これからの日本の中長期の新しいエネルギー・環境戦略というものをまとめてまいりたいと思います。どうか引き続き皆さま方のご関心と、そしてご議論を、いろいろなところで行っていただきますことを心からお願い申し上げまして、御礼のご挨拶とさせていただきます。どうも本日はありがとうございました。

◎意見表明者 7

大臣、1つ質問。今の聞いた言葉は政府なの？ それとも政党なの？

◎古川大臣

もちろん政府です。

◎意見表明者 7

政府。そしたらあんたのところ政権取れんでも変わらないわけね。それを聞きたい。

◎古川大臣

政府です、はい。

◎意見表明者 7

政府と政権とをきちんとして。自民党にさせないなんて。それがあってやれんのよ。そのところが曖昧だとやれんのよ。自民党が政権取った時にどう変わるか。

<閉会>

◎司会者

本当にどうもありがとうございました。6番の方が最初にご意見表明される時に、今朝うちの子に「頑張ってるね」と言われたとおっしゃっていました。1人の子どもが1人のお父さんに言った言葉ではなくて、子ども世代が大人世代に言ってる言葉だと思います。本当に今日会場にお集まりの皆さんも、今インターネットでご覧いただいている皆さんも、われわれ政府も、ひっくるめた今の世代が次の世代のためにしっかり本当に議論していきたいと思えます。今日は、つたない進行でしたがご協力ありがとうございました。

(参加者からの声)

◎司会者

意見表明が短いというご指摘が今会場から出ました。実は、これはアンケートでもたくさん頂いております。パブリックコメントは大変な数を頂いておりますし、今、毎回毎回もいる

んなご意見、アンケートを頂いております。これをこれから本当にどうやって集約するのかということ、今かなり真剣に中で議論しておりますので、もうしばらくすると恐らく、これはこういうプロセスでまとめていきますということも、この後いきなりある日エネルギー環境会議が開かれて、はい、こうなりましたではなく、間にどんなプロセスがあったのかもこれから精いっぱい明らかにしていきたいと思っております。

(参加者からの声)

◎司会者

これからこういう意見に対して、これをどうやって皆さんの意見をそれぞれにちゃんと聞いて、そして一つのものにしていくかのプロセスが、山の1合目からいきなりてっぺんに行くのではなくて、途中もきちんと見えるようなかたちを今一生懸命考えておりますので、もうしばらくお待ちください。ありがとうございます。

(参加者からの声)

◎司会者

パブリックコメントは、今1つ1つ。

(参加者からの声)

◎司会者

今お声がありましたのは、パブリックコメントは本当に反映されるのかというご意見でした。もちろんそのために精いっぱい努力していきますし、反映しました、こうなりただけでは皆さん信用できませんから、どうかたちの途中の検討をやったのか、これをきちんと見せるその方法を今内部で検討しております。どうもありがとうございました。

◎司会者

以上をもちまして、エネルギー環境の選択肢に関する意見聴取会を終了させていただきます。皆さま方の、ご参加いただいた方のご意見は、ぜひアンケートをご記入いただきまして、出口にて係の者にお渡しいただきますようご協力お願い申し上げます。

そして皆さま方、お忘れ物の無いようお気を付けてお帰りくださいませ。本日は、ご参加いただきまして皆さま誠にありがとうございました。